

白井市

産業振興ビジョン

～多様な産業の地域の底力↑↑↑～

農業

商業

工業

観光

千葉県白井市

目 次

第1章 産業振興ビジョンの策定にあたって・・・1ページ

- 1 産業振興ビジョンの目的・・・1ページ
- 2 産業振興ビジョンの位置づけ・・・2ページ
- 3 産業振興ビジョンの期間等・・・3ページ

第2章 本市の産業を取り巻く現状と課題・・・4ページ

- 1 白井市の概況・・・4ページ
- 2 農業の現状と課題・・・11ページ
- 3 商業の現状と課題・・・15ページ
- 4 工業の現状と課題・・・19ページ
- 5 観光の現状と課題・・・25ページ
- 6 白井市のポテンシャル・・・28ページ
- 7 SWOT分析からの取り組み指針・・・30ページ

第3章 白井市の産業振興ビジョン・・・34ページ

- 1 全体ビジョン・・・34ページ
- 2 分野別ビジョン・・・35ページ
- 3 分野別ビジョン・基本方針・・・39ページ
- 4 分野間連携・・・40ページ

第4章 ビジョンの戦略的推進・・・41ページ

- 1 農業振興の戦略的プラン・・・41ページ
- 2 商業振興の戦略的プラン・・・45ページ
- 3 工業振興の戦略的プラン・・・49ページ
- 4 観光振興の戦略的プラン・・・53ページ

第5章 計画の推進・・・57ページ

- 1 関係主体の役割・・・57ページ
- 2 計画の推進体制等・・・58ページ

別冊 戦略的アクションプラン

第1章 産業振興ビジョンの策定にあたって

1 産業振興ビジョンの目的

本市では平成28年度から「ときめきとみどりあふれる快活都市」を10年後の将来像とし第5次総合計画を実施しておりますが、令和3年度からは総合計画における後期基本計画に取り組み、将来像実現のため産業振興の分野においても計画的に推進していくこととしています。

また、平成25年4月からは、産業の振興に関する施策を総合的に推進し、地域経済の活性化を図っていくことを目的とした産業振興条例が制定され様々な取り組みを行ってきました。

白井市内の産業は、古くからは梨の栽培を中心とする農業を基幹産業としてきましたが、現在は工業団地やニュータウン整備などによる周辺環境の変化により、農業、商業、工業などバランスの取れた産業構造となっています。白井市及び国を取り巻く社会経済情勢は、少子高齢化、世代交代、経済のグローバル化など大きく変化を続けており、その情勢とともに昨今では、新たな課題やニーズも顕在化し、地域経済の持続的かつ安定的な発展が求められています。

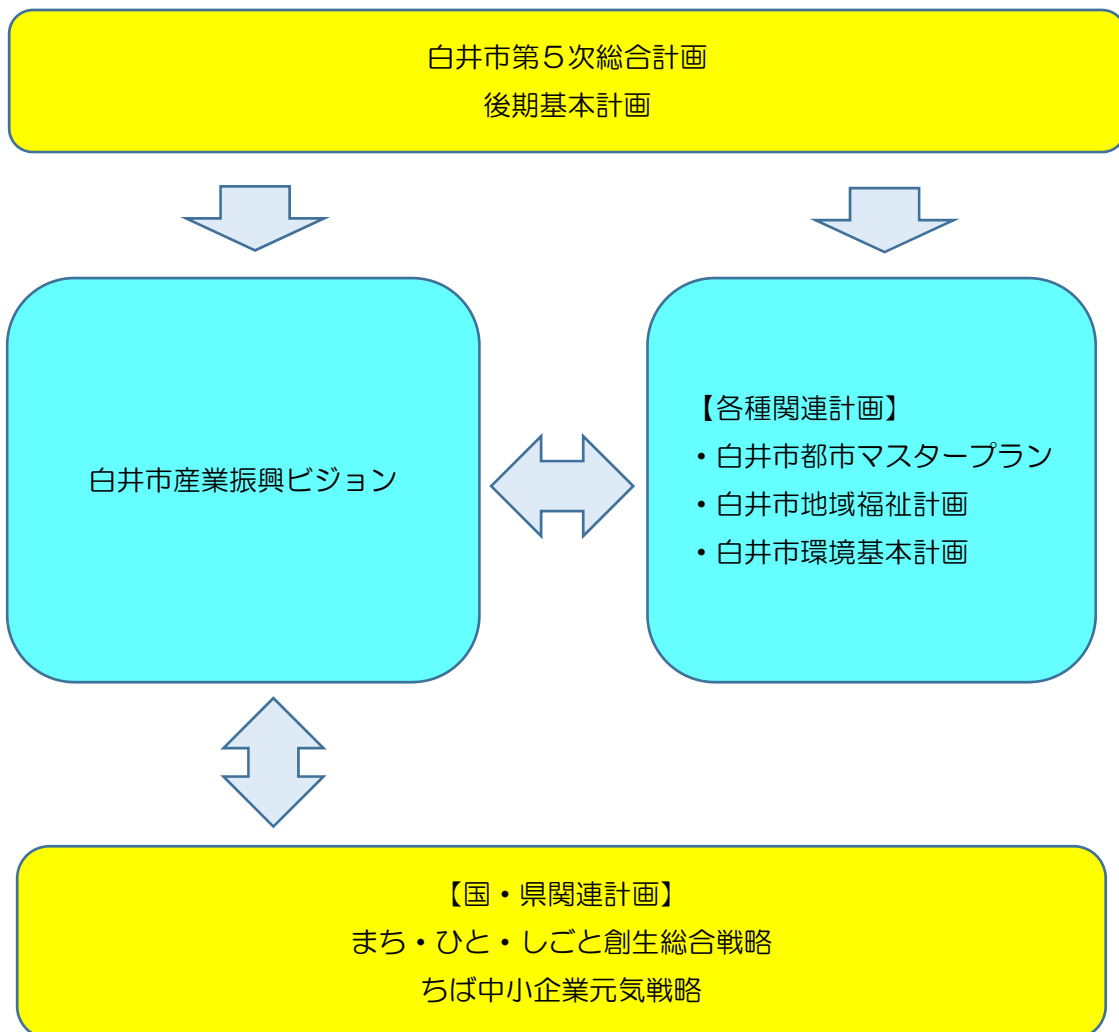
こうした市内の産業を取り巻く環境や構造が大きく変化している今、改めて市の特性や強み、現状、課題を整理し、この先進むべき将来像や方向性、求められる施策を、事業者や産業関係団体、市民、行政などで連携、協力し、推進することが重要となってきています。

本ビジョンは、市の第5次総合計画を推進するための個別基幹計画に位置づけられており、本市の産業における中期的な視点で基本方針や基本目標を定めることで各産業の持続的かつ安定的な発展を目指し、地域経済の活性化、産業振興を図っていくことで、市の将来像の実現を目指していくものとなります。

2 産業振興ビジョンの位置づけ

「白井市産業振興ビジョン」は、本市の行政運営を総合的かつ計画的に推進していくための最上位計画である「白井市第5次総合計画」を推進するための個別基幹計画に位置づけられ、総合計画における将来像である「ときめきとみどりあふれる快活都市」の実現を目指すための産業分野全般に関する指針となるものです。

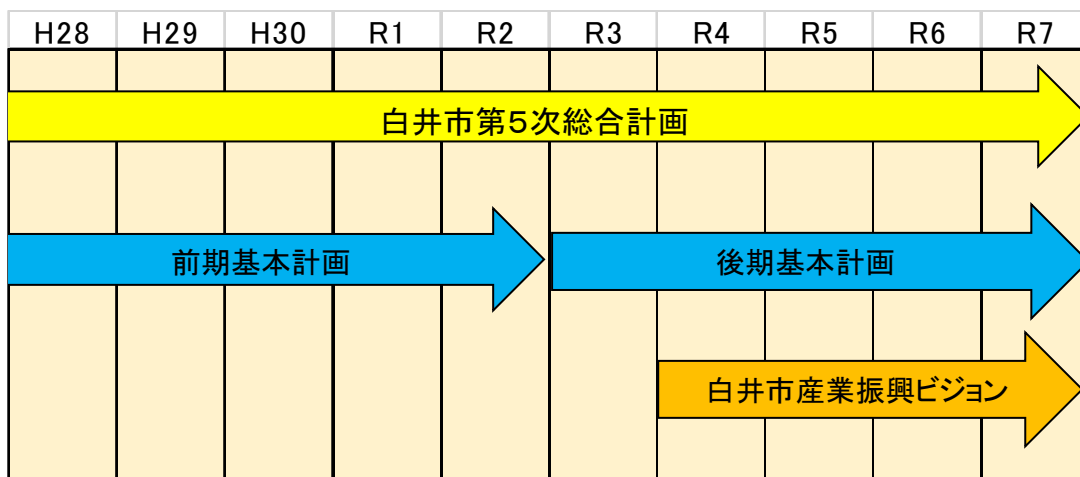
また、産業振興の各施策の推進にあたっては、市の都市マスタープランやまち・ひと・しごと創生総合戦略等関連する諸計画のほか国、千葉県との計画と連動、整合性を図りながら農業、商業、工業、観光を中心とした産業のあらゆる要素を包含し、総合的に取り組みを進める産業全体の目指すべき姿と位置づけ、本ビジョンに基づいて産業振興に係るあらゆる取組を推進していきます。



3 産業振興ビジョンの期間等

本ビジョンの実施期間は、第5次総合計画後期基本計画との連動性を図るため、令和3年度から令和7年度までの後期基本計画期間に合わせ、令和4年度から令和7年度までのものとします。

また、市の最上位計画である総合計画の見直しや、本市を取り巻く社会情勢や産業動向、経済環境の変化を踏まえて、必要に応じて計画内容の見直しを行います。



第2章

本市の産業を取り巻く現状と課題

1 白井市の概況

(1) 地勢・位置

白井市は千葉県北西部、印旛地域に位置し、東は印西市、八千代市、南は船橋市、西は鎌ヶ谷市、北は柏市の5市に接していて、春には梨の花が咲き誇り、都市と住宅が調和したまちです。

都心と成田空港の間に位置し、都心から30キロメートルの距離にあり、標高は20～30mで、概して平坦な下総台地からなり、温和な気候と地味肥沃な土地に恵まれたまちで、特に全国有数の梨の産地として知られています。

交通網では南北に国道16号が縦断し、東西には国道464号が横断し、鉄道においては北総鉄道で都心まで約40分と、交通にも便利なまちとなっています。

■白井市の位置

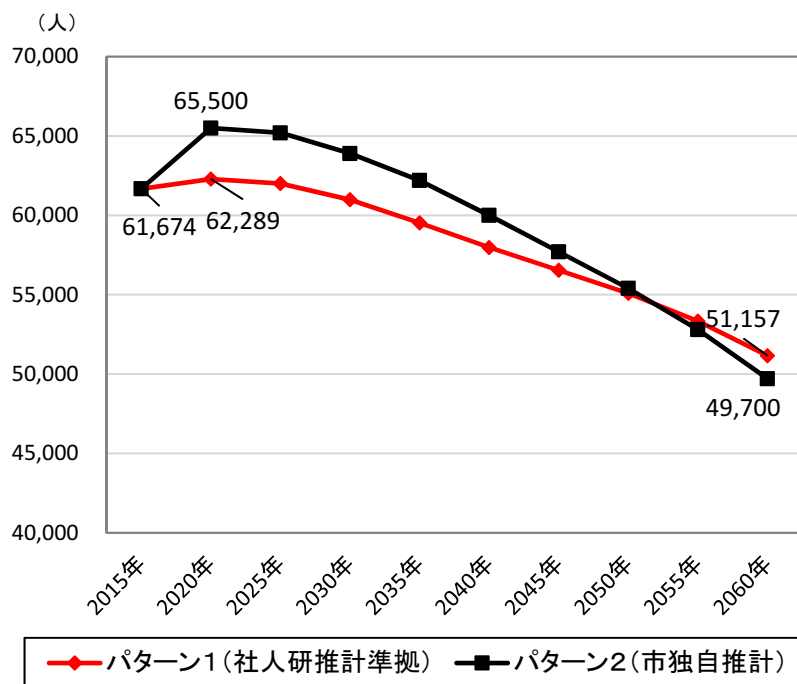


(2) 人口の推移

本市の総人口は昭和54年の千葉ニュータウンの街開きにより、急速に増加し続けました。平成7年以降、人口の増加傾向はやや緩やかになりましたが、平成17年から平成22年にかけては、西白井地区での区画整理事業、笹塚地区におけるニュータウン事業などに再び増加傾向に転じたときがありました。

今後の人口推計における見込みでは2つのパターンで推計していますが、パターン1の国立社会保障・人口問題研究所（社人研）による推計とパターン2の市独自の推計となるものですが、どちらの推計においても人口減少、少子高齢化などにより2020年をピークに減少していく推計となっています。

総人口の推計



	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
パターン1 (社人研推計準拠)	61,674	62,289	62,008	60,986	59,523	57,978	56,541	55,087	53,332	51,157	48,718
パターン2 (市独自推計)	61,674	65,500	65,200	63,900	62,200	60,000	57,700	55,400	52,800	49,700	46,300

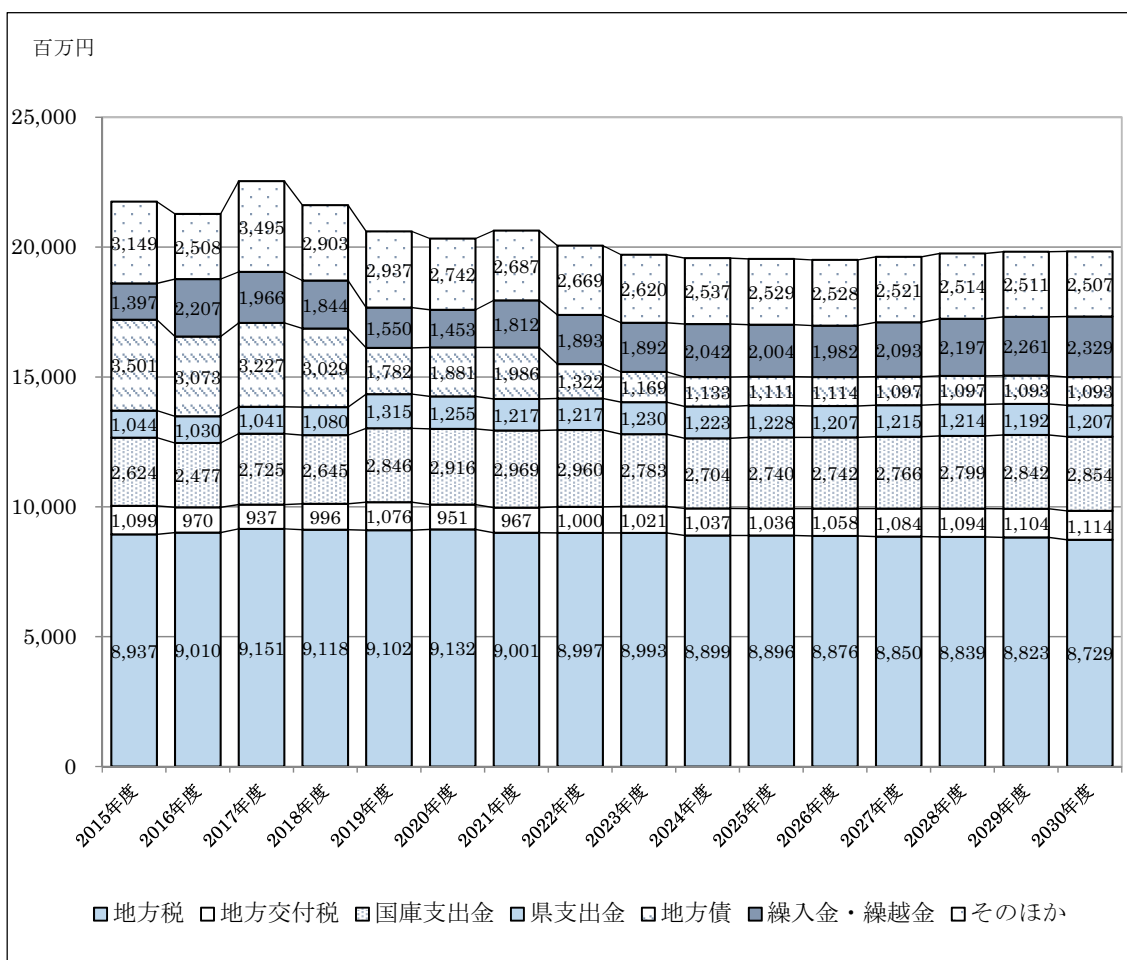
資料：2015年は総務省国政調査
 2020年以後は社人研「日本の地域別将来推計人口及び（平成30年（2018年）年推計）及び白井市「人口推計報告書」から作成

(3) 財政推移・推計

人口減少や少子化・高齢化の進展による税収の減少など厳しい財政状況が予想される中、自主財源の確保や事業の選択と集中とともに、市民と行政が一体となって限りある資源を有効に活用し、持続可能な行財政運営を進めていかなければなりません。

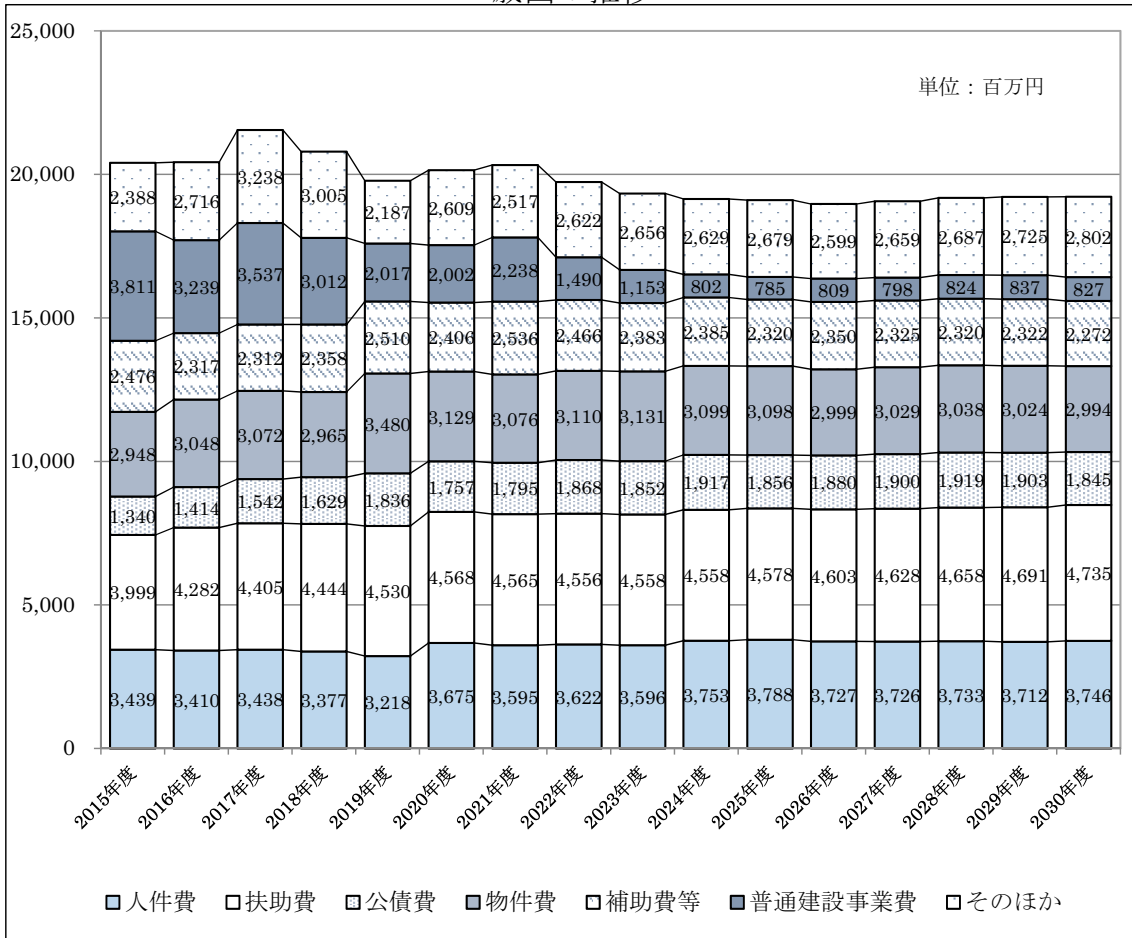
令和3年度から令和7年度末までの後期基本計画における5年間の財政の収支においては、市の貯金である財政調整基金の額は約20億円の見込みですが、今後の経済情勢や災害、施設の老朽化など、不測の事態にも備え、持続可能な行財政運営の観点をもって取り組んでいくことが求められます。

歳入の推移



資料：「財政推計の見直しと財政健全化の取り組み」

歳出の推移

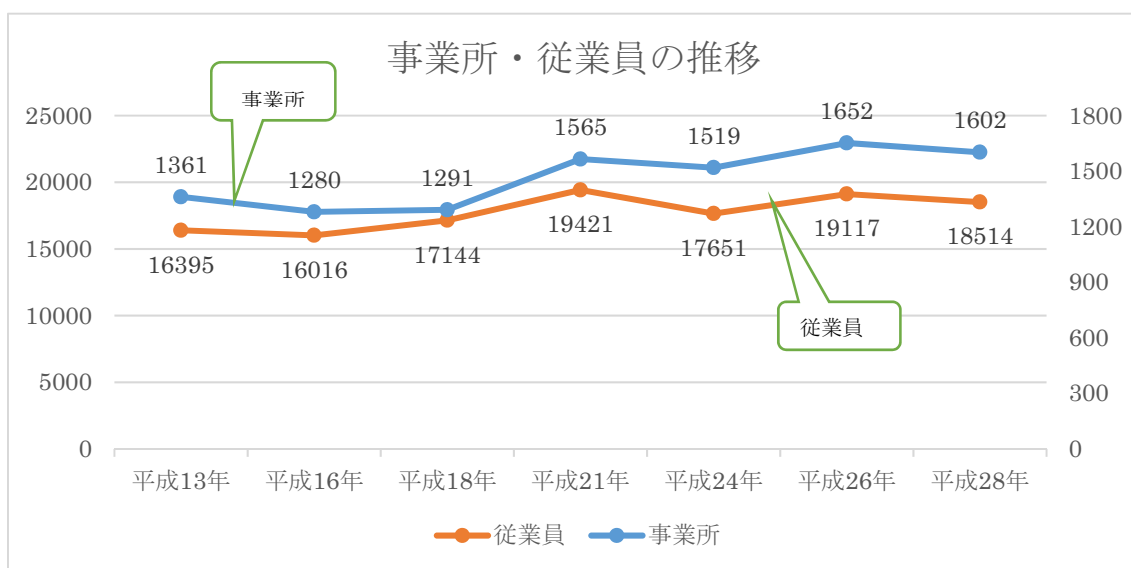


資料：「財政推計の見直しと財政健全化の取り組み」

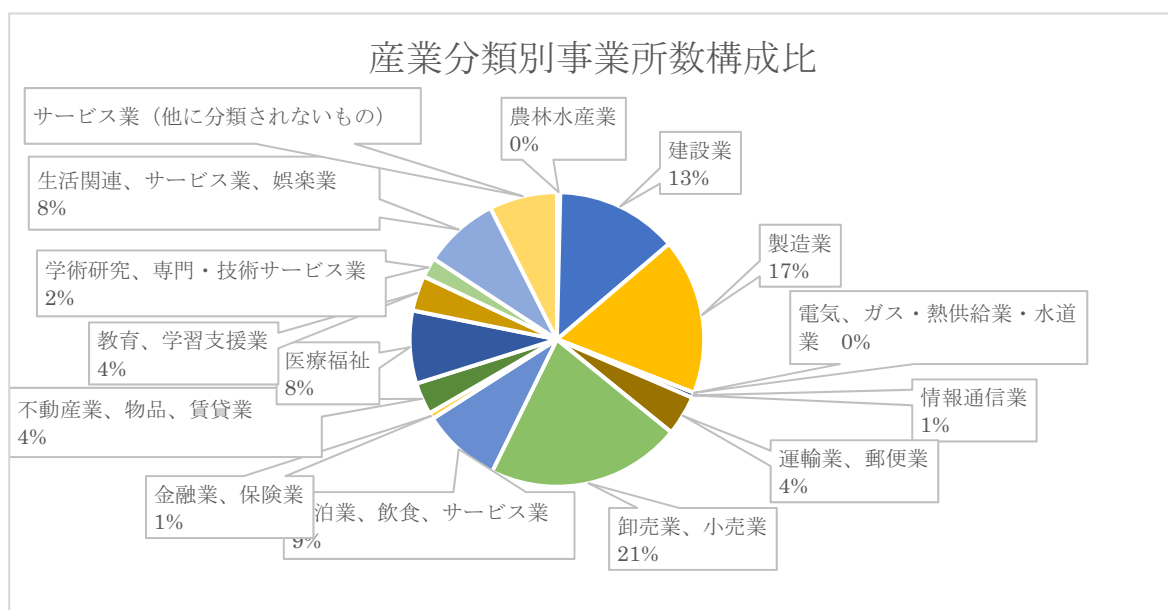
(4) 事業所・従業員の推移

経済センサスにおける事業所数では平成18年から平成26年までは平成23年にあった東日本大震災の影響などにより一時期減少した時期もありましたが、その後は緩やかに増加傾向にあり、平成26年から近年はやや減少傾向となっています。

従業員数では平成21年をピークに近年まで減少傾向となっており、特に平成23年の東日本大震災直後は大きく減少しましたが、その後は緩やかに増加してきていますが、平成21年のピーク時までには至らない状況となっています。



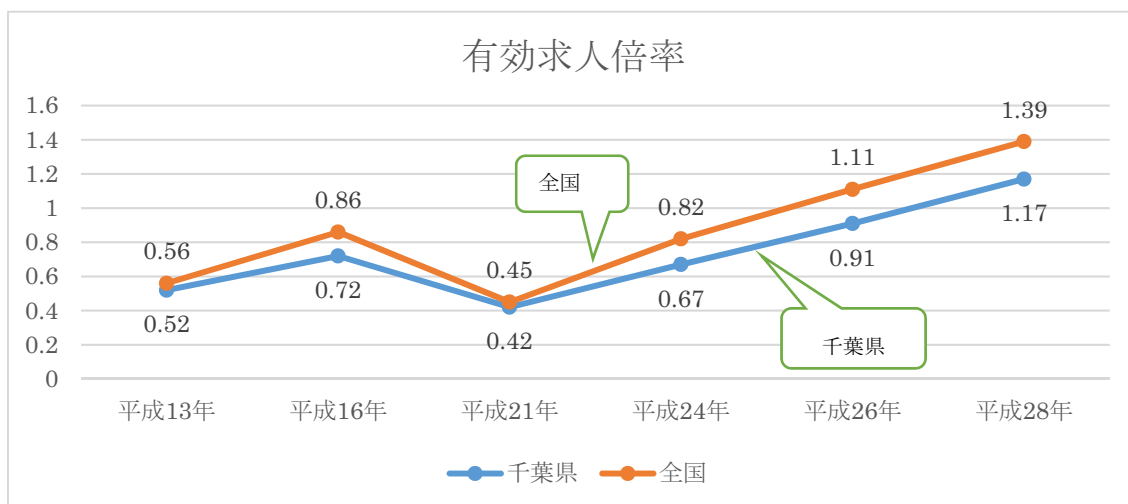
資料：「経済センサス」



資料： 経済センサス 28年度

(5) 雇用情勢有効求人倍率

千葉県における有効求人倍率は、全国においても千葉県においても平成21年から近年まで増加傾向となっており、雇用情勢は改善してきている一方で、各産業分野で人手不足が深刻化してきていました。しかし、今後のコロナ禍による社会情勢の変化などにより、再び雇用情勢は厳しいものとなっていくものと考えられます。

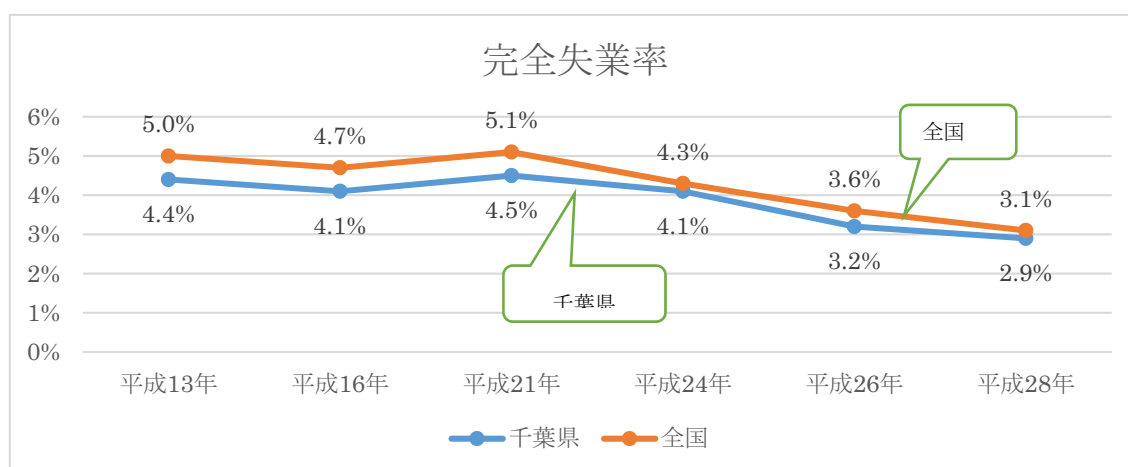


資料：厚生労働省一般職業紹介状況

(6) 雇用情勢完全失業率

完全失業率は、平成21年からは全国的に雇用情勢が回復し、有効求人倍率が増加傾向であったことと連動し、完全失業率は減少で推移してきています。

しかし、今後のコロナ禍による社会情勢の変化によりこれからは厳しいものとなってくることが考えられます。



資料：「平成28年 総務省労働力調査」

(7) ハローワーク船橋管内有効求人倍率

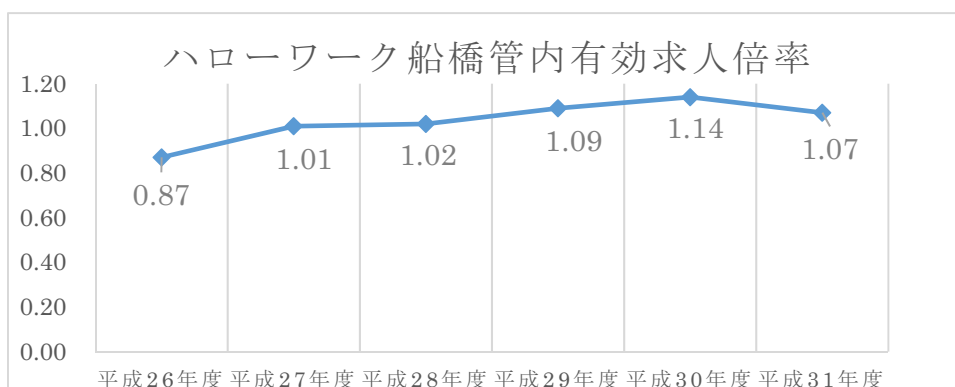
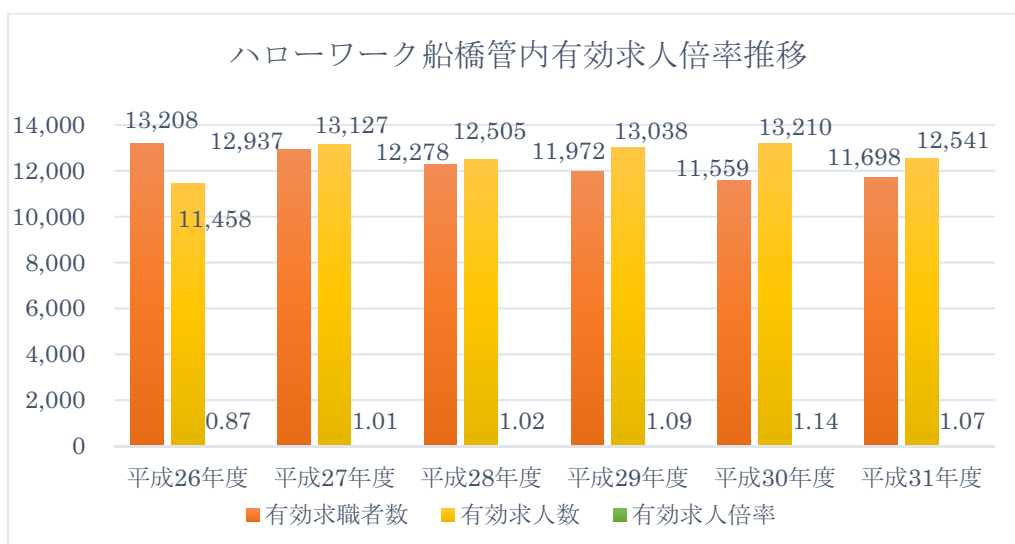
ハローワーク船橋管内における有効求人倍率の推移は、直近3年間において有効求職者が有効求職者数を上回り、有効求人倍率も上昇傾向にあり、雇用情勢の改善と人手不足が顕在化してきています。

しかし、今後はコロナ禍による社会情勢などの変化により、今後の雇用情勢も厳しいものになってくるものと考えられます。

ハローワーク船橋（管内：船橋市・習志野市・八千代市・鎌ケ谷市・白井市） 【単位：人】

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
有効求職者数	13,208	12,937	12,278	11,972	11,559	11,698
有効求人数	11,458	13,127	12,505	13,038	13,210	12,541
有効求人倍率	0.87	1.01	1.02	1.09	1.14	1.07

資料：ハローワーク船橋業務月報



2 農業の現状と課題 農業の動向

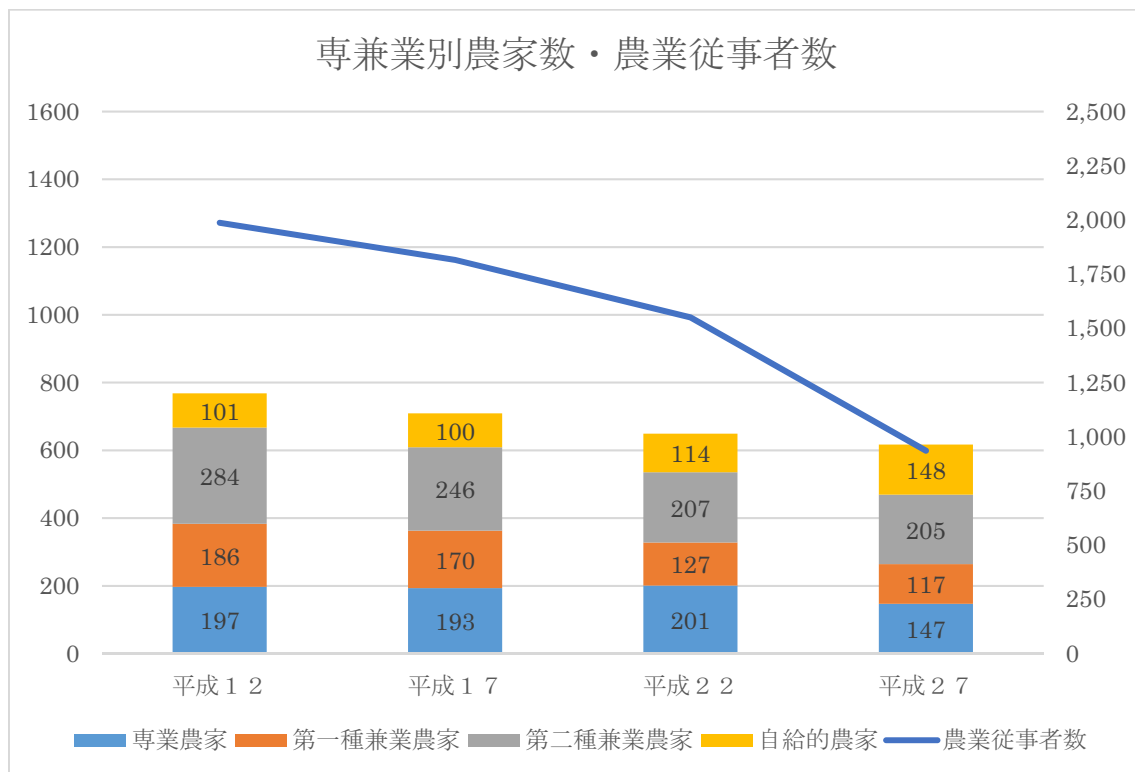
(1) 現状

白井市は、標高20～30mのほぼ平坦な地形、年間平均気温19度と温暖な気候のもと、水稻、野菜、果樹等の農産物がバランスよく生産されており、都市近郊農業の形態を保持し、首都圏への食料供給地として発展してきました。中でも地理的条件を活かした本市特産物でもある梨生産が大半を占める樹園地が耕作地の多くを占めています。

(2) 農業の動向

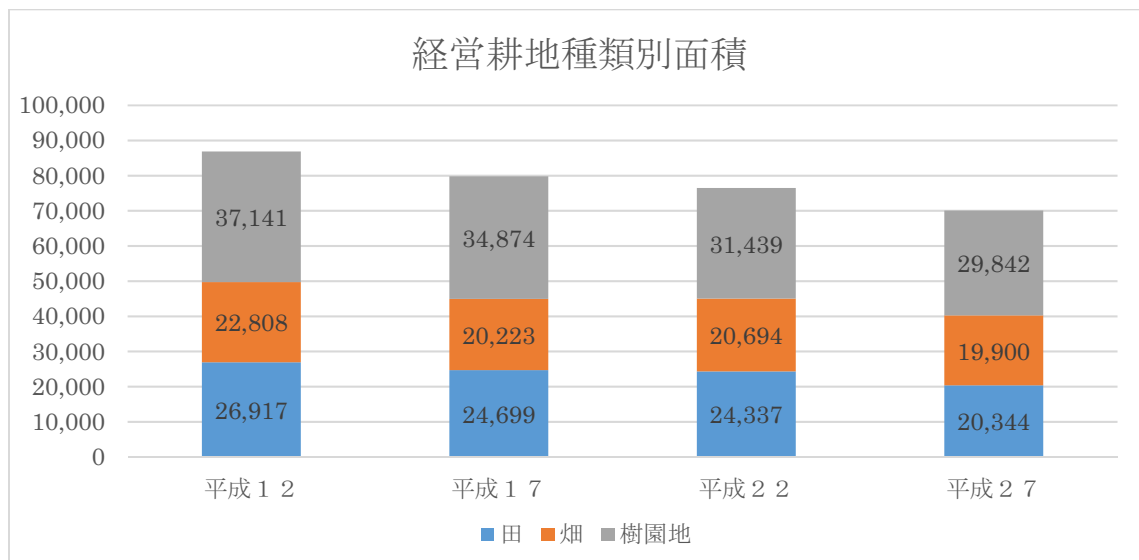
農家総数は、過去20年間で一貫して減少傾向で推移しています。過去10年間で第二種兼業農家はほぼ横ばいで推移していますが、専業農家は10年前に比して約24%減少しています。また、一方で自給的農家は増加しています。

また、農業従事者数について平成27年の人数は10年前の平成17年に比してほぼ半減となっています。



資料：農林水産省「農林業センサス・世界農林業センサス」

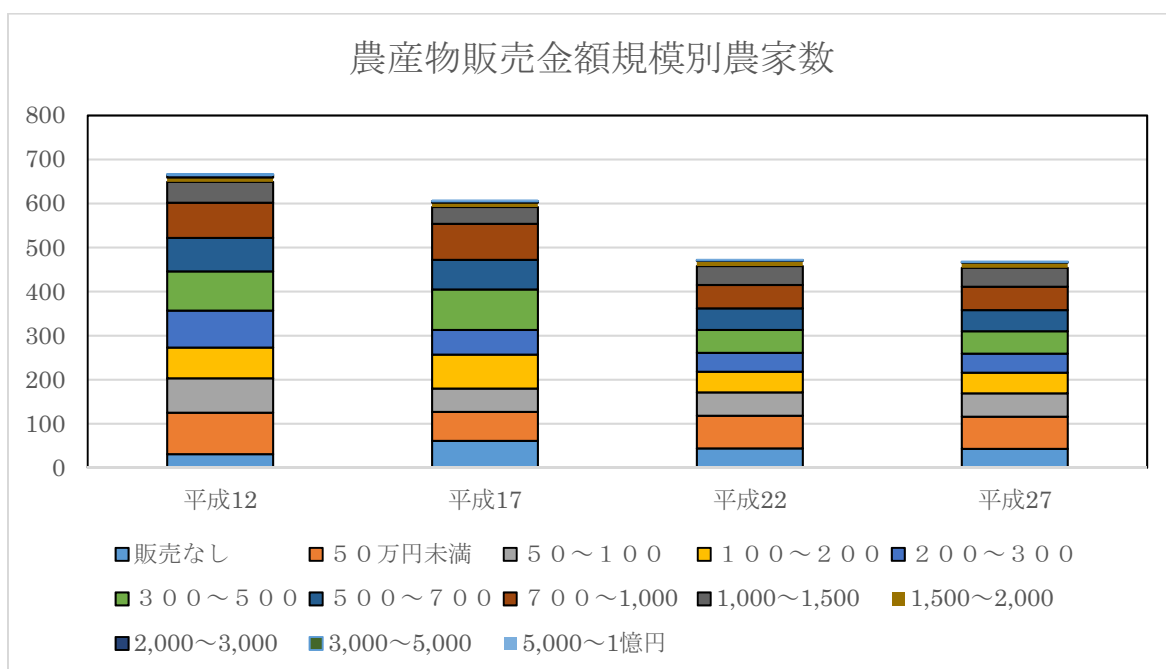
経営耕地面積の動向をみると、減少傾向で推移していますが、特に田の減少が顕著になっています。



資料：農林水産省「農林業センサス・世界農林業センサス」

農業従事者の平均年齢は、平成17年は56.1歳であったのに対し、平成27年は58.3歳となっており、今後徐々に高齢化が進行するものと考えられます。

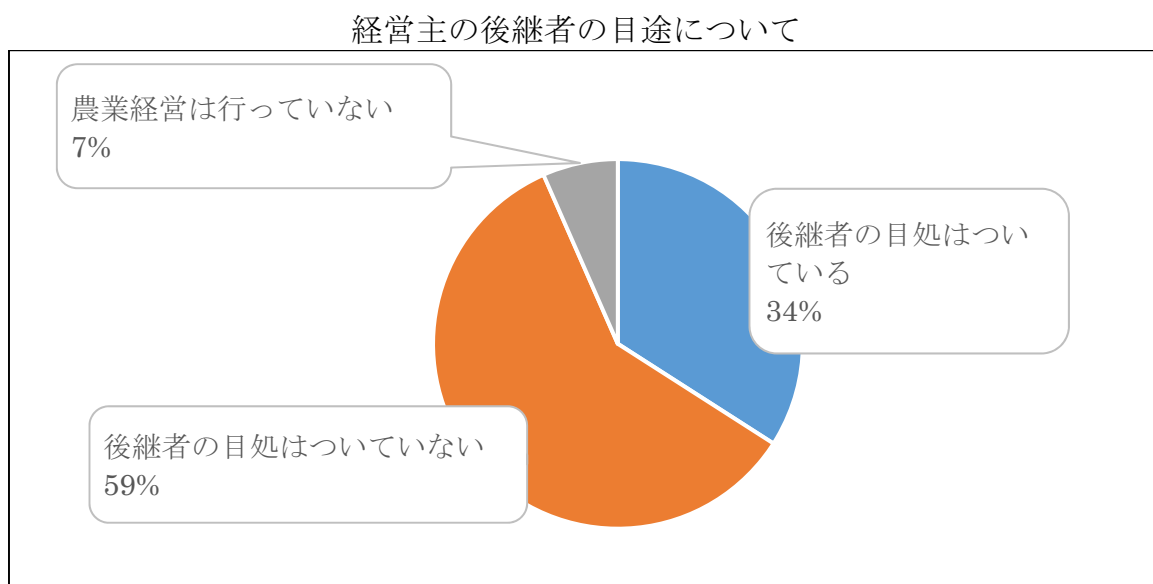
また、農産物販売金額規模別農家数は、100万円～1,000万円の間で各層の農家数の減少が見られますが、特に300万円～500万円の販売金額の農家数の減少が目立っています。



資料：農林水産省「農林業センサス・世界農林業センサス」

(3) 課題

本市の農業では、農業従事者数の減少と高齢化が進行しており、後継者不足が課題となっています。農業者へのアンケートでも回答者の約6割が後継者の目途がついていないと回答しており、後継者の目途がついているのは約3割程度に止まっています。

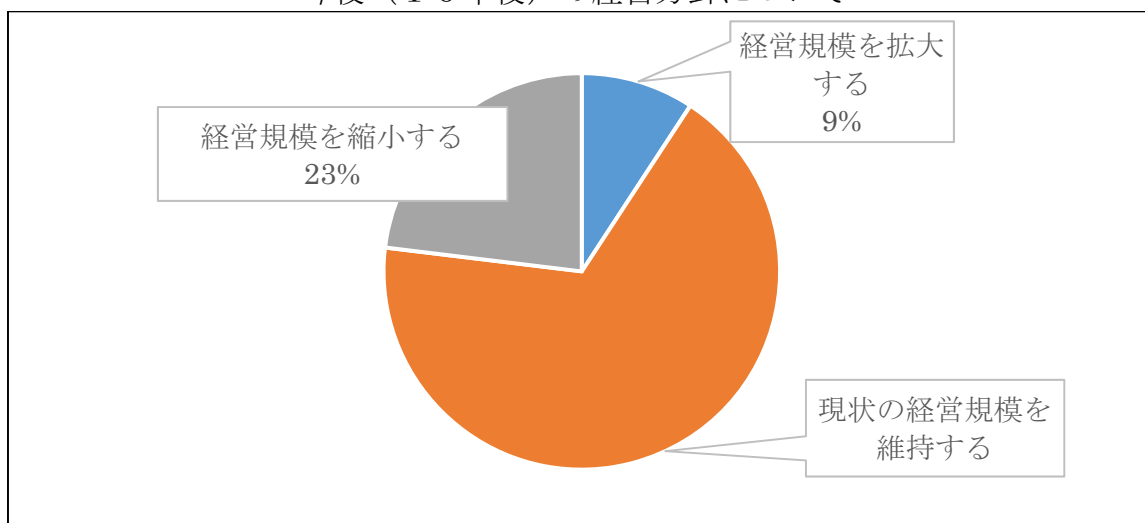


資料：2020年 地域農業の将来に関するアンケート

また、白井市では水稻、野菜、果樹等の農産物がバランスよく生産されていますが、農業就業人口の高齢化及び減少に伴い、後継者に継承されない又は担い手に集積されない農地で遊休化した農地が増加傾向にあり、近年では約190ha前後で推移しています。

農業者へのアンケートでも経営規模を維持する意向の農家が約7割であるのに対し、規模を縮小する意向の農家も2割以上おり、今後さらに耕作されない農地が増えることが予測されます。耕作放棄地の増加により担い手への利用集積への影響や周辺農地の耕作にも大きな支障を及ぼすおそれがあるため、担い手や新規就農者の育成と担い手への農地集積や経営移譲を進めていく必要があります。

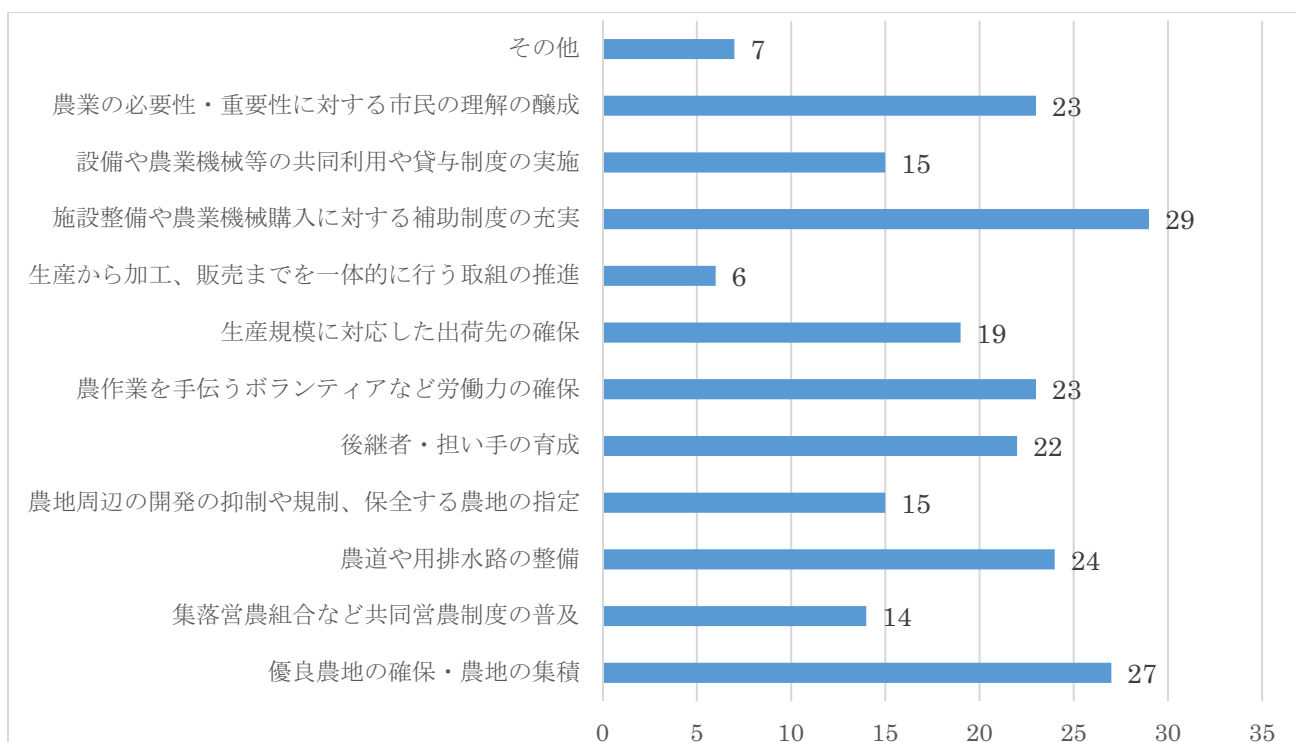
今後（10年後）の経営方針について



資料：2020年 地域農業の将来に関するアンケート

今後展開すべき農業施策について、現状で農業者が求める施策は、アンケート調査によると、施設整備や農業機械購入に対する補助制度の充実、優良農地の確保・農地の集積、農道や用排水路の整備、生産設備・基盤等の整備に係る施策を求める意見が多くなっています。また、周辺住民の農業に対する理解の促進、労働力確保、後継者・担い手育成に対する施策展開が求められています。

重点を置くべき農業施策について



資料：2020年 地域農業の将来に関するアンケート

3 商業の現状と課題

(1) 現状

本市の商業は、7つの商店会と食品スーパーやチェーン店が点在しており、駅前にもスーパーが立地しているなど、買い物、消費地として利便性の高い地域となっています。

小売業の事業所数は増加傾向であり、特に年間商品販売が大きく増加しており、近年、市内に新たな商業施設もオープンし賑わいを見せています。

しかし、周辺地域には大型施設が立地し、IT化による消費行動の変化やコロナ禍による社会情勢、生活様式の変化による消費者ニーズも変化し、厳しい商業環境となっています。

市民の買い物先としましては、食料品や日用品は市内で買い物をしている傾向ですが、衣料品や家具などは近隣市に買い物客が流出している状況となっています。

地域の賑わい創出と地域住民の快適な暮らしを支える産業を社会的に維持していくためにも商業の活性化は地域の発展において重要なものとなります。



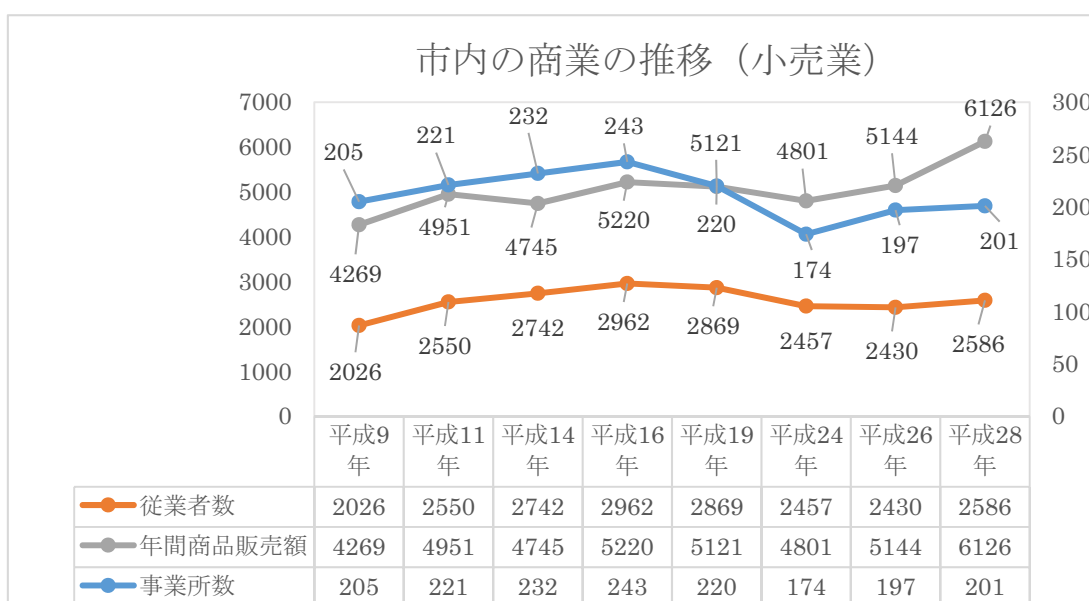
(2) 商業の動向

商業の動向では、年間商品販売額は増加で推移していますが、従業員数と事業所数は近年ではやや増加傾向となっています。

また、商工業の活性化に関するアンケート結果では経営者の年代では50代以上が約6割を占め、経営者の高齢化が進んでいます。

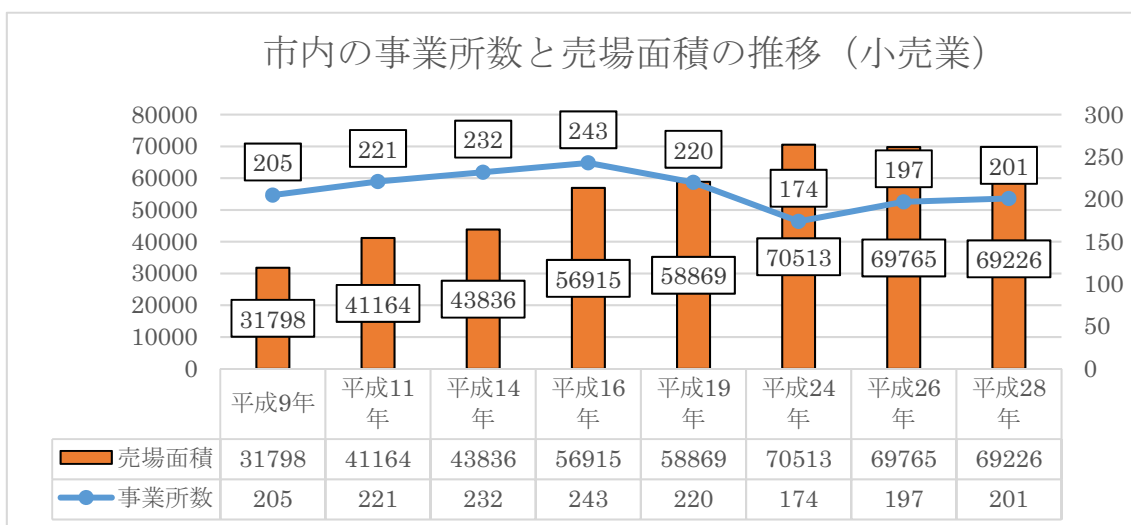
市民の買い物先では、食料品や日用品の買い物はほぼ市内で買い物をしていきますが、家具や衣料品は市外で買い物をしている傾向です。

①商業の推移（小売業）



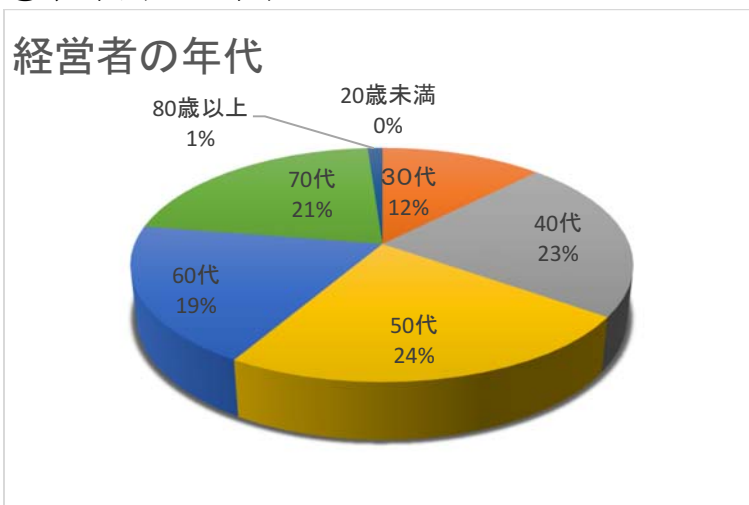
資料：「経済センサス 活動調査」

②商店（小売業）の事業所数と売場面積推移



資料：「経済センサス 活動調査」

③経営者の年代



20歳未満	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上
0	11	20	21	17	19	1

資料：白井市商工業の活性化に向けたアンケート

④市民の買い物先

	白井市	印西市	鎌ヶ谷市	柏市	船橋市
食料品(生鮮食品)	85.6%	8%	4%	2%	1%
飲食(外食)	44.6%	32.1%	6.7%	6.7%	4.2%
日用品	75.2%	15.2%	12%	6%	1%
家具	11.4%	70.3%	2.0%	3.3%	3.7%
衣料(紳士服)	11.4%	41.9%	9.7%	10.6%	4.2%
衣料(婦人服)	16.8%	43.7%	5.0%	16.0%	7.6%

資料：千葉県消費者購買動向調査（平成30年度）

(3) 商業における今後の課題

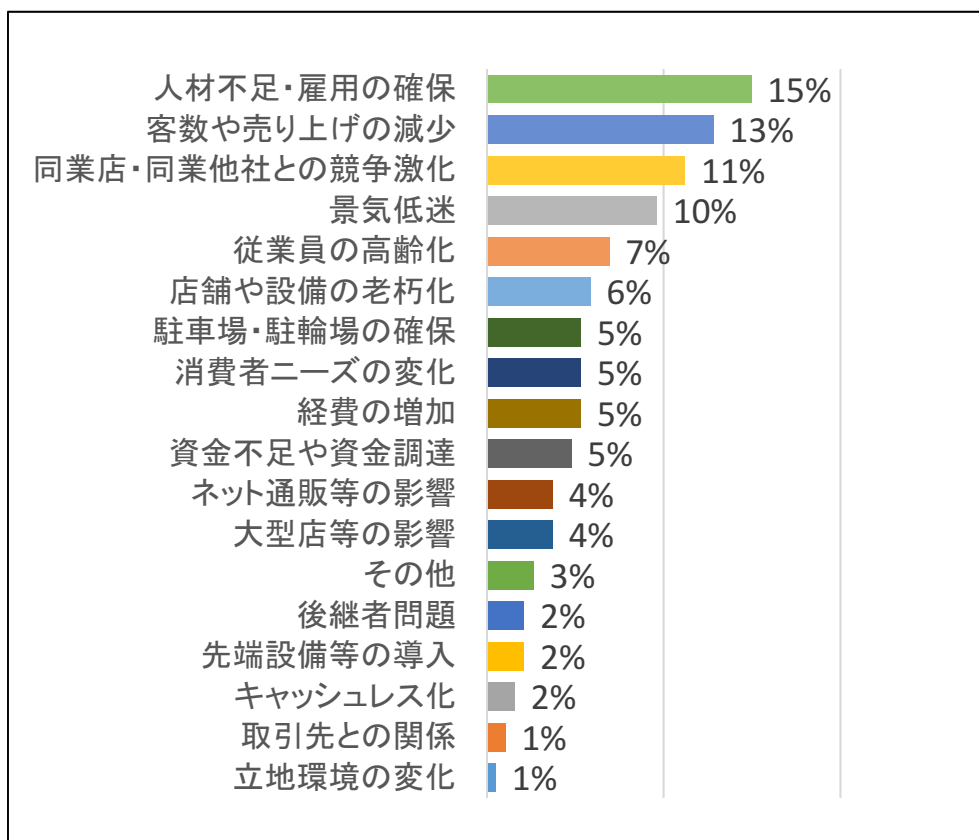
本市には大型商業施設はなく、中堅スーパー、ホームセンター、商店会や個人商店が中心となっていて、商店会の多くはロードサイドに位置し、車の通行量が多く徒歩でゆっくり回遊できる環境ではありません。

近年の傾向として、スーパーやコンビニになどの出店により事業所数や従業員数は上昇傾向にある一方で、小規模事業者、個人商店などは経営者や従業員が高齢化しており、後継者不足や人手不足で厳しい経営環境の事業者も多く、持続的な経営が課題となっています。

また、商店会の会員数の減少や物販店、飲食店の減少、空き店舗などの問題もあり、持続可能な商業環境の構築や発展には、集客による賑わいが創出できる魅力ある店舗づくりや魅力ある店舗の誘致などが必要となっています。

今後は、商業の持続的発展のために事業承継や起業しやすい環境の整備のほか、コミュニティービジネスの創出や出店、開業により各地域や白井、西白井駅前の賑わい創出ができる場づくりなどで地域商業の活性化を図っていく必要があります。

①事業者が直面している経営課題



資料：2019年白井市商工業の活性化に向けたアンケート

4 工業の現状と課題

(1) 現状

本市の工業は経済センサスでは事業所数は横ばいで推移しており、製造品出荷額では平成25年から堅調に増加してきていますが従業員数は平成24年をピークに減少に転じています。

市内には、多様な業種、高い技術力が揃う千葉県内最大の内陸工業団地となる白井工業団地があり、様々な企業が地域経済を支えています。

白井工業団地では、中小企業を中心に約300社もの企業が集積しており、業種では金属製品製造業が多いのが特徴です。これまでは製造系の企業が多くを占めていましたが、近年では物流、倉庫、サービスなどの事業者が増えてきており、立地業種が多様なものに変容してきています。

また、従業員約7000人が従事しており、市内外問わず、地域の雇用を支えています。

近年は、国道16号沿いの白井市復インターチェンジ付近にも企業の進出が進み、物流施設などの産業施設の立地が見られます。

これからは、都心と成田空港を結ぶ北千葉道路の整備が進むことにより、沿道への企業立地ニーズが高まり、企業の進出が期待される地域であり、また、周辺地域には大規模な電力供給が可能となる東京電力新京葉変電所があり、電力インフラに恵まれた地域であることなど企業立地にはポテンシャルの高い地域となっています。



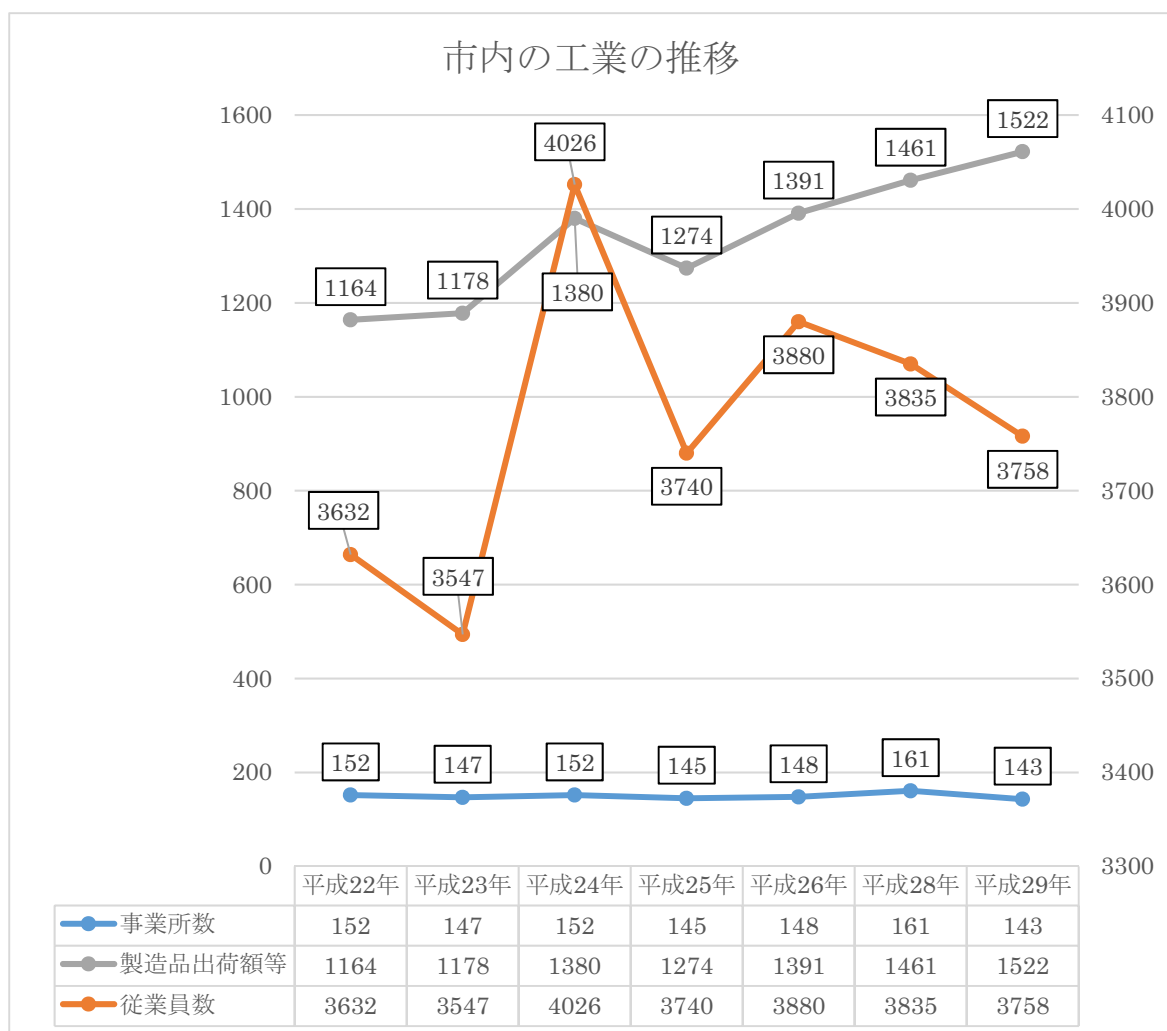
(2) 工業の動向

経済センサスによる事業所数はほぼ横ばいの状況ですが、製造出荷額数では近年上昇傾向となっています。

また、白井工業団地実態調査からは白井工業団地内に集積する業種では製造業が最も多く、その中でも金属製品製造業が最も多い業種となっています。

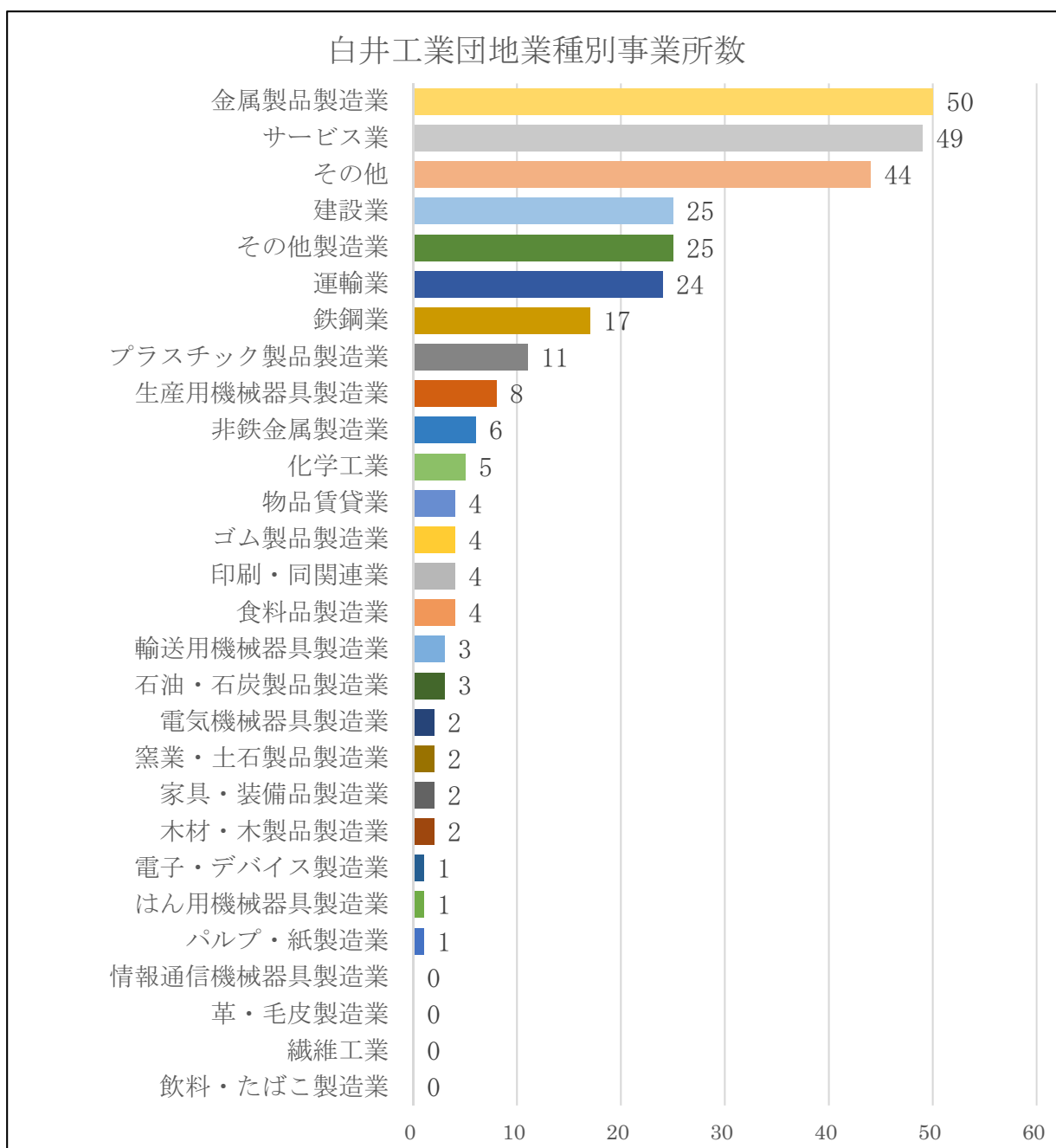
主な販売先や仕入れ先では県外が多く、工業が抱える経営課題としては人材の確保が最も多く、次いで従業員の高齢化や設備の老朽化などとなっています。

①事業所 従業員数 製造品出荷額推移



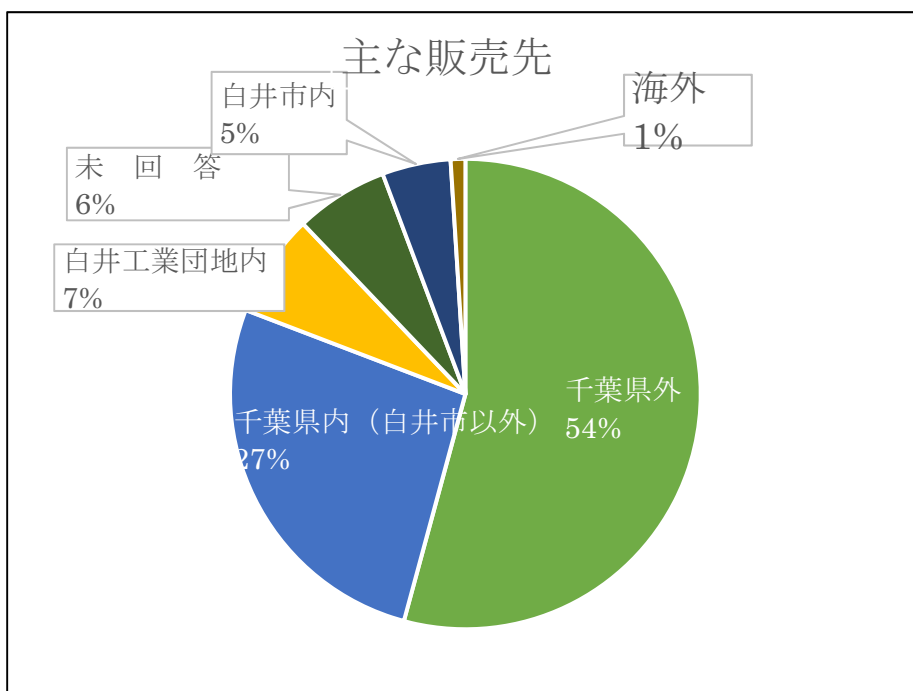
資料：「工業統計調査・経済センサス活動調査」

②白井工業団地業種別事業所数



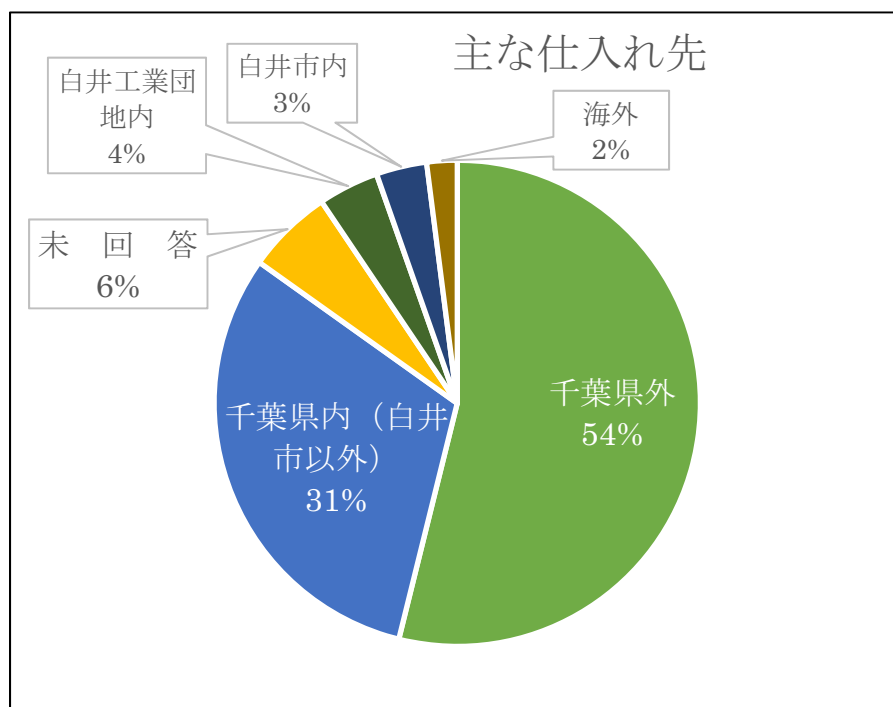
資料：「2019年 白井工業団地実態調査」

③主な仕入れ先



資料：2019年 白井工業団地実態調査

④主な販売先



資料：2019年 白井工業団地実態調査

(3) 課題

本市の工業は白井工業団地を中心に様々な業種と技術力の高い企業が集積していますが従業員数は減少傾向で、これまで技術を支えてきた従業員が高齢化し人手不足も深刻化してきており、人材の確保や育成と世代交代が喫緊の課題となっています。

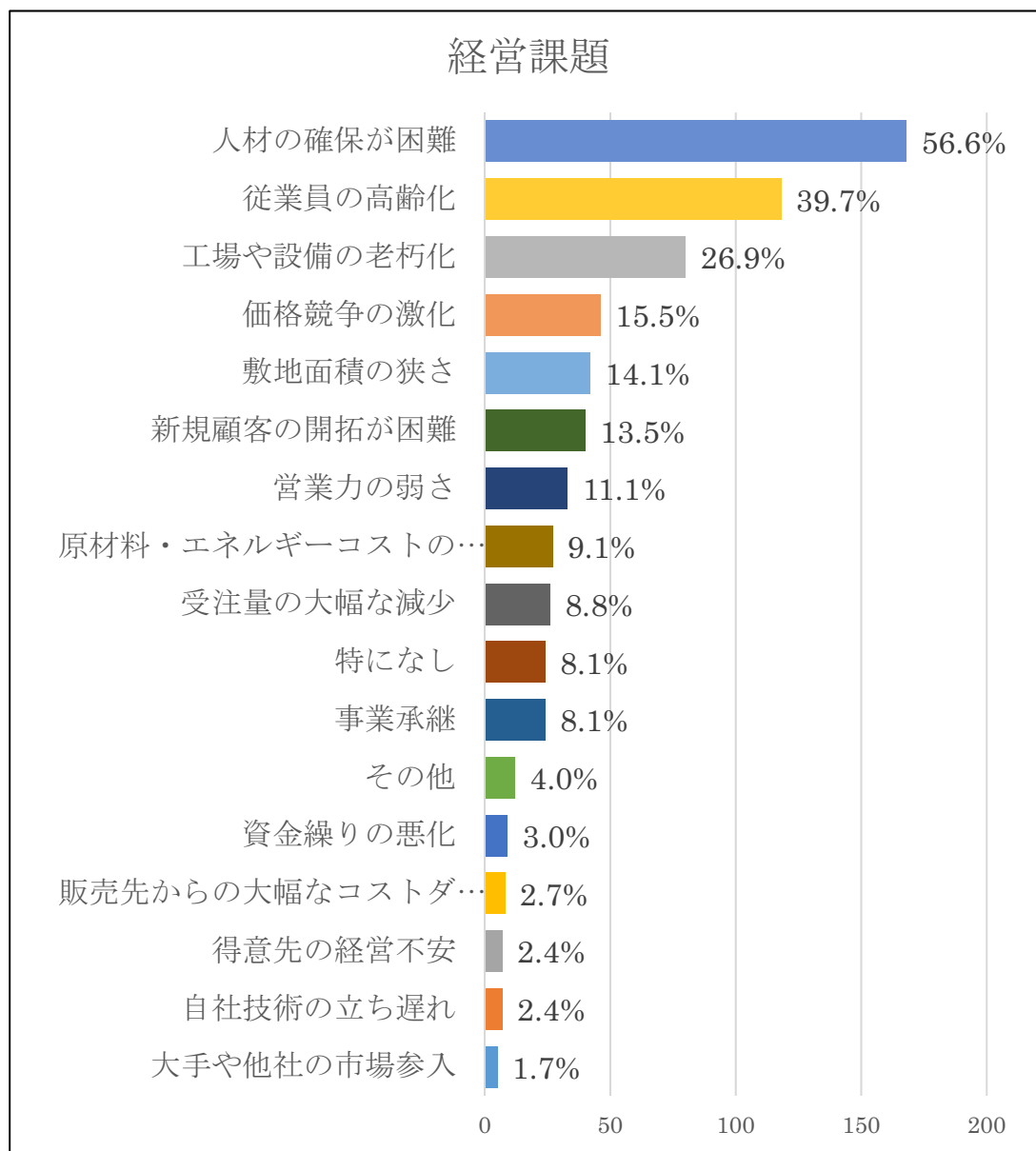
また、設備の老朽化や、国内マーケットの縮小による受注機会の確保のほかグローバル化への対応、技術革新による先端設備の導入、事業用用地の確保など、様々な経営課題を抱えているのが現状です。

インフラ面においては、国道16号からの白井工業団地へのアクセス道路の整備や将来的な水道の整備が今後の課題となっているほか広域的には都心から成田空港を結ぶ北千葉道路の早期整備などが期待されています。

白井市は電力インフラにも恵まれた地域であり、豊富な電力供給を活かせる事業者を誘致し地域の発展に繋げられるポテンシャルのある地域ではある一方で事業用地がなく、今後多様な産業を誘致できるための事業用地の創出、受け皿づくりも課題となっています。

これからはグローバル化や技術革新、IT化による事業構造の変化のほか自然災害や世界的なコロナ禍による社会環境の変化、世界経済情勢の影響がより大きな時代となる中で、地域の事業者が持続的に事業を続けていくためには、そういった環境に左右されない、強靱かつ多様な企業の連携、新技術・新産業立地などにより地域内で経済が循環しながらの活性化・産業振興を図ることが重要なものとなります。

①経営課題



資料：2019年 白井工業団地実態調査

5 観光の現状と課題

(1) 現状

本市は千葉県北西部に位置し、都心から30km圏内にあり成田空港にもほど近く、交通の便がいい地域といえます。また梨の有数の産地であり、春には梨の花が咲き乱れ、8月になると沿道には梨の直売所が開設され、それらの時期は賑わいを見せる地域となっています。

主な観光産業としましては、ゴルフ場や天然温泉施設のほかそろばん博物館などがあり、周辺地域には手賀沼や緑豊かな自然環境があり季節を問わず散策には最適な地域となっています。

また、毎年10月に開催される「ふるさとまつり」では、地元野菜や特産品の販売などで多くの来場者で賑わいを見せるほか、「梨マラソン」では市外からの参加者も多く、人気のあるイベントとなっています。

このほかに、白井市には全国でも珍しい日本中央競馬会（JRA）の競馬学校があり、数々の有名騎手がここから活躍をしています。

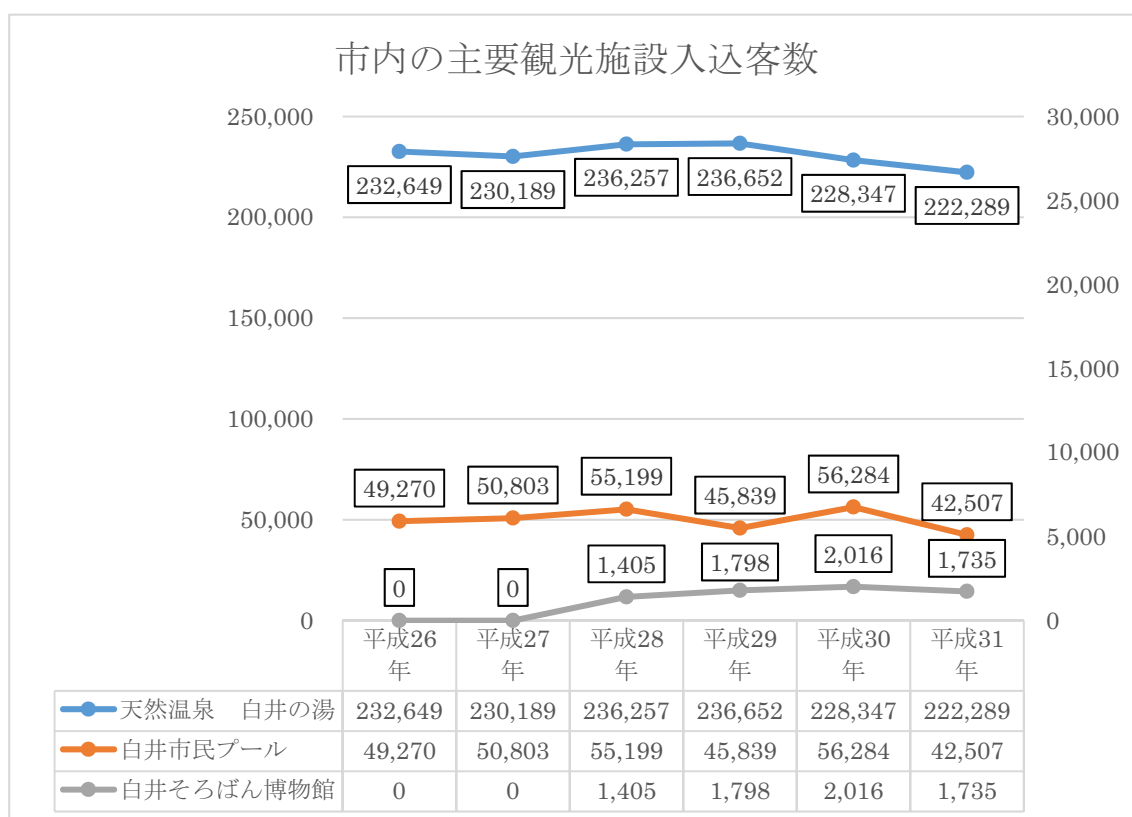
しかしながら本市は全国的に知名度のある名所や観光施設はないのが現状であり、今後は認知度を高め、市外からの誘客を増やすため、観光資源の発掘や創出が課題となっています。

(2) 観光の動向

本市の主な観光施設として、「天然温泉しろいの湯」や「そろばん博物館」がありますが、観光入込客数では直近6年間で全体的に横ばいの傾向になっています。

イベントにおいては、天候などにも左右されますが、近年における入込客数の推移にはばらつきがある状況となっています。

①主要観光施設入込客数推移



資料：「平成31年度観光地等観光入込客数調査」

②市内イベント来場者数等

その他の観光イベント・施設データ

単位：人

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度
白井市ふるさとまつり(来場者数)	35,000	48,000	45,000	51,000	5,000	55,000	30,000
白井市梨マラソン(参加者数)	3,462	3,461	3,409	3,461	3,457	3,661	3,656
白井市文化祭(来場者数)	7,489	8,373	9,283	9,327	7,951	12,228	8,290

資料：白井市観光客入込調査

(3) 課題

本市は、有数の梨の産地であります。市外などから誘客できる観光施設としての観光梨園が少ないことが現状となっており、今後は梨の生産者の協力を得ながらどのように観光資源として、活かしていけるかが課題となっています。

また、白井市は都心から30キロメートル圏内にありながら、沼や里山、田園風景など自然環境にも恵まれた地域ではありますが、人を魅了する地域資源としてどのように生かして観光客を誘客し回遊させていくかも課題となっています。

産業分野では、農業、商業、工業分野があり、魅力ある企業、事業者での体験、見学による産業観光の創出や異業種、異分野間での連携、マッチングにより、新たな地域資源、観光資源、特産品の開発、育成などを図ることで、観光振興に繋げていく必要があります。

観光による地域の経済活性化を促すためには、様々な産業、市民、関係機関などとの連携・協働により地域の魅力を創出し、観光客の誘客もさることながら消費をしてもらう仕組みづくりが課題となっています。

6 白井市のポテンシャル

本市は、千葉県北西部に位置し、首都圏と成田空港の中間に位置し、都心から30km圏内にあり、道路網では南北に国道16号が縦断し、東西には国道464号（北千葉道路）が横断し、鉄道では都心と成田空港を結び、交通の利便性の高い地域となっています。

産業では農業、商業、工業などがあり、バランスの取れた産業構造となっており、それぞれの強みと発展、交流により、様々な発展が期待されます。

また、近年、平坦な下総台地の安定した地盤上にあり、災害も少なく、千葉県北西部を横断する北千葉道路の整備や電力インフラにも恵まれた本市は、企業立地には適した地域であり、企業進出のニーズが高い地域となっています。

土地利用促進の状況にもよりますが、将来的には国道16号沿いや北千葉道路沿道及び周辺地域に産業施設の集積が進めば、更なる地域の発展が期待されます。

【梨の出荷量は千葉県内1位】

都心から30km圏内と近いながらも梨の出荷量は千葉県内1位を誇り、梨の産地としては有名な地域であり、梨の季節にはたくさんの直売所が市内に開設され賑わいを見せます。

特産品としては梨を活用した加工品が販売され、これからも新たな商品開発が期待されるほか梨の産地であるポテンシャルを活かし、市民ニーズに応えながら、直売所などでの人の交流や集客などが期待でき、地域の活性化に繋がっていくものと考えられます。

【商工業の展望】

本市には千葉県最大の内陸工業団地があり、中小企業を中心に多様な業種で特殊な技術を持つなど、技術力の高い事業者が数多く集積しています。

多様な業種が集積している強みを活かし、地域内での連携や提携、異業種交流が進むことにより、新商品、新技術、新産業創出に繋がり、より一層価値を発揮していくことが期待されます。

【社会情勢と周辺環境の変容】

本市の地域の特性として、農業、商業、工業などの産業がありますが、基幹産業である農業については都心にも近いことなどから近年の後継者不足に伴う耕作放棄地の発生や一部農地の転用・売買により農地面積が減少し、宅地化や開発が進む地域があるところもあります。

商工業については、首都圏30km圏内エリアで利便性が高く、地盤も安定している地域であることなどから、白井工業団地には様々な事業者が集積、立地しており市外からは事業用地を求める企業が多い状況ですが、事業用地がないこ

とが本市の課題となっています。

本市は平成29年に白井市都市マスタープランに基づく「市街化調整区域における地区計画の運用基準」の運用を開始し、また、都市マスタープランの見直しを行い、市の総合計画における後期基本計画の取り組み目標を実現するため、市街化調整区域の一部の許容された区域に戦略的な産業の受け皿の創出を図っていくこととしています。

今後は都心から成田空港を結ぶ北千葉道路の整備と近隣地域にインターチェンジの設置が決定されており、交通インフラが充実していくことから、交通網の重要なエリアとなり、沿道や周辺地域には産業施設の立地ニーズが高くなっていくことが考えられます。

【電力インフラを活用した産業振興】

千葉ニュータウン印西地区エリアは、都心からも近く、近年データセンターの立地が進んでいる地域となっています。

本市はその周辺地域に位置し、近隣市には全国で有数の大規模変電所である東京電力新京葉変電所があり、高圧鉄塔が市内を縦断し、一部市域内においては大規模な電力が活用できる地域にあります。

この電力インフラは貴重な地域資源と考えられ、「市街化調整区域における運用基準」において示されているインターチェンジ周辺開発誘導型地区や白井駅周辺へのデータセンターや物流施設などの戦略的な企業誘致を行う上で、最大の強みとなります。

本市は北千葉道路の整備、近隣地域のインターチェンジ設置、恵まれた電力インフラを活用し、データセンターなどの産業施設の誘致を推進することで地域の雇用拡大と産業振興が図られるポテンシャルを有しています。

【産業の成長と強靱化】

現在はテクノロジーの発達とIT革命により世界的に技術革新が起こり、産業界は変化と進化の中にあります。

今後はこうした高度な技術、先端的設備の導入、活用により地域産業の生産性を向上させていく必要があります。

また、近年の台風などの甚大災害やコロナ禍による社会情勢の変化、ニューノーマル（新常态）な時代への対応が重要なこととなり、自然災害や経済のグローバル化、世界経済情勢の影響を受けずに事業活動が展開できるよう各企業、産業の強靱化を図るため、各事業者で作成する事業継続計画（BCP）の策定推進も重要なこととなります。

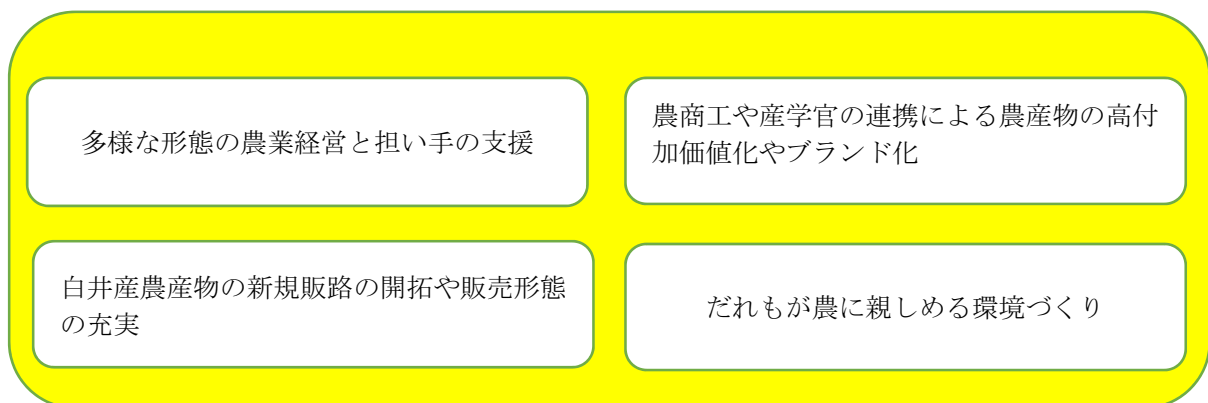
7 SWOT 分析からの取り組み方針

(1) 農業における SWOT 分析

強み (Strengths)	弱み (Weaknesses)
<ul style="list-style-type: none"> 千葉県内1位（生産面積・生産量）を誇る梨産地であり、首都圏の市場において重要な取引産地となっている ニュータウン地域が隣接し、消費の場が近い都市近郊農業として直売や市場出荷など多様な販路がある。 市民の身近な場所に緑豊かな田園風景や農業に親しめる環境がある 梨について、しろいの梨育苗センターにおける大苗の共同生産・供給により老木改植やジョイント栽培等の効率的な生産技術の導入が進んでいる 	<ul style="list-style-type: none"> 農業就業人口の減少と高齢化の進行や後継者不足 農家子弟の農業離れによる兼業化や廃業に伴い、後継者がおらず担い手にも集積されない農地の遊休化の進行 梨の栽培面積と経営体数の減少による市場出荷対応の生産量の確保、産地維持への影響 梨以外の品目の生産者は零細で、各地域の出荷組合も小規模であるため、農家単独での生産・販路の拡大は困難
機会 (Opportunities)	脅威 (Threats)
<ul style="list-style-type: none"> 梨農家の後継者による経営力・技術力向上や産地活性化の取り組みと経営規模拡大の動向 耕作放棄地を再生し、新規品目の産地化や加工品開発を目指す意欲ある農業者の存在 農業に対する関心の高まりと新規就農希望者の増加 	<ul style="list-style-type: none"> 耕作放棄地の拡大に伴う周辺の担い手農業者の営農意欲減退、農村景観や農地の多面的機能等の価値の減退。 天候不順や台風等の自然災害の頻発、病害虫の多発等による農業経営への影響 天候による生産の不安定化や新型コロナウイルス感染症の影響による消費・需要動向の変動等の不透明性



白井市の農業振興の基本方針・戦略

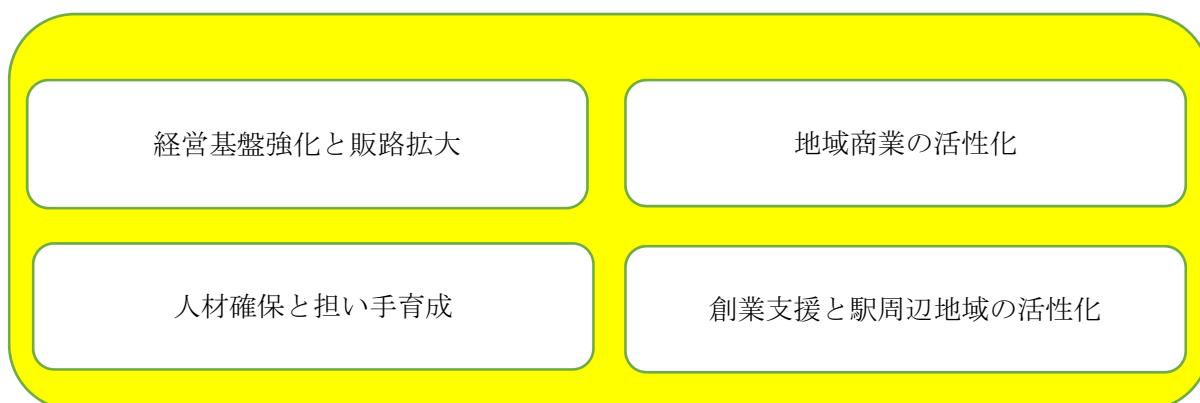


(2) 商業における SWOT 分析

強 み (Strengths)	弱 み (Weaknesses)
<ul style="list-style-type: none"> ・都心と成田空港の中間に位置し、住環境良好で移動距離が短く消費地に近い ・生活関連の小規模事業者が多い ・夏には市内沿道各所に梨の直売所が開設される ・豊富な電力インフラがある ・スーパーの立地が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・駅前に飲食店、物販店が少なく、賑わいが乏しい ・多くの商店会の店舗がロードサイドにあり、分散している ・食品や贈答品などの魅力的な商品を販売する繁盛店が少ない ・若手の経営者、新規創業が少ない ・市内に大型商業施設がない ・市内の回遊に交通網がバスしかなく、交通機関が弱い ・近隣大型商業施設に買い物客が流出している ・地域商店会の会員数が年々減少している
機 会 (Opportunities)	脅 威 (Threats)
<ul style="list-style-type: none"> ・北千葉道路やインターチェンジの整備による周辺環境の変化 ・将来的な駅周辺地域の土地利用 ・公益的施設誘導地区への商業施設などの企業誘致 ・ふるさとまつりでは多くの事業者が出店し、PR、交流の場になっている ・近隣地に大型商業環境が充実している ・国による経済対策の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模事業者の従業員、経営者の高齢化 ・人口減少による地域のマーケットの縮小 ・近隣市に大型商業施設が立地やネット・EC 事業の拡大、普及などによる小規模事業者の厳しい経営環境 ・スーパーやコンビニの進出による地元小規模事業者への影響 ・近隣大型商業施設に買い物客が流出している ・売上が減少している事業者が多い ・災害や新型コロナウイルス感染拡大の影響等による商業環境、生活様式による消費者行動の変化 ・商店街灯など各商店会施設の老朽化 ・定期借地権付きの駅前の駐車場用地や商業施設用地の将来の動向



白井市の商業振興の基本方針・戦略

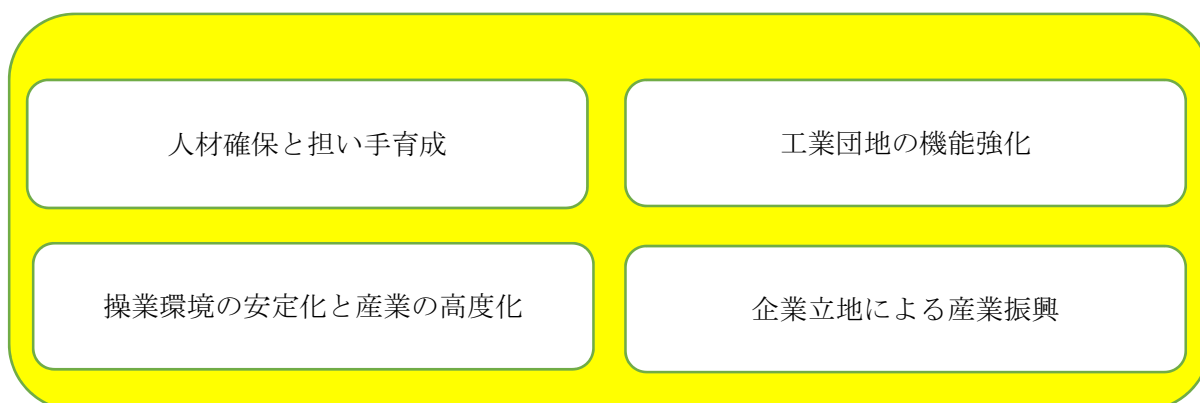


(3) 工業における SWOT 分析

強 み (Strengths)	弱 み (Weaknesses)
<ul style="list-style-type: none"> ・約 300 社が集積する県内最大の内陸工業団地があり、多様な業種が集積している ・技術力の高い企業が集積している ・白井工業団地には白井工業団地協議会が発足され、工業振興に活発に取り組んでいる ・都心から 30 キロ圏内に位置し、成田空港や千葉港にも近い ・工業団地内で約半分の企業が何らかの取引を行っている ・工業団地内の事業者の 5 割が本社所在地を市内にしている ・白井工業団地全体で約 7000 人が就業している。 ・地盤が安定し、災害が少ない ・恵まれた電力インフラがある 	<ul style="list-style-type: none"> ・白井工業団地への進入路が少なく、道路網が脆弱である ・一部の侵入道路に速度制限があり、事業活動の障害となっている ・白井工業団地への通勤手段が車かバスしかない ・市民雇用が少ない ・若手人材、技術者の確保、育成が進まない ・企業誘致のための事業用地がない ・工業団地が工業専用区域であるため、飲食店や物販店がほとんどない ・企業の販売先、取引先の半分以上が県外である
機 会 (Opportunities)	脅 威 (Threats)
<ul style="list-style-type: none"> ・北千葉道路の整備やインターチェンジの整備による利便性の向上や周辺環境の変化 ・北千葉道路の整備による地域のポテンシャル向上と土地利用促進 ・将来の国道 16 号からのアクセス道路の整備により利便性の向上 ・調整区域内の一部に、一定の都市的土地利用を許容した公益的施設誘導地区がある ・技術革新による先端的設備の導入による生産性の向上が期待される 	<ul style="list-style-type: none"> ・従業員が高齢化しており、若手人材確保が難しい ・道路などインフラ施設が老朽化している ・水道がなく、井戸水を利用しているが飲料水に適さない ・地震や台風など甚大災害時の不安 ・経済のグローバル化や経済情勢、新型コロナウイルス感染拡大の影響や世界情勢の変化によるサプライチェーンなどの影響 ・人口減少に伴う国内マーケットの縮小 ・世界情勢や地政学的な影響による原材料、燃料などの高騰 ・工専区域に使える事業用地がなく、事業拡大に伴う市外への流出が懸念される



白井市の工業振興の基本方針・戦略

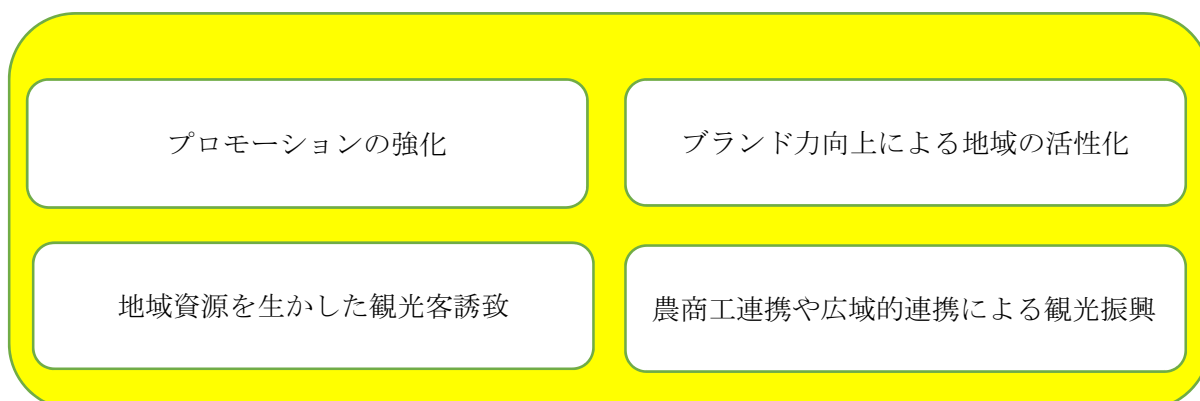


(4) 観光における SWOT 分析

強 み (Strengths)	弱 み (Weaknesses)
<ul style="list-style-type: none"> 本市は都心から30キロ圏内に位置し、成田空港からも近く交通至便な地域である 産業は農業・商業・工業とバランスよくある 全国でも有数の梨の産地であり、千葉県内では出荷量が一番の生産地である 日本で唯一のJRA中央競馬学校がある 都心への通勤圏でありながら緑溢れ、自然環境が豊かである 周辺地域には手賀沼や印旛沼などの観光スポットがある 	<ul style="list-style-type: none"> 白井市の知名度・認知度が低い 千葉ニュータウンの一角となる街でベッドタウンの様相が強い 全国的に誘客できる観光施設がない 梨以外の有名な特産品がない 主要な交通アクセスが鉄道であり、運賃が高い 宿泊施設やビジネスホテルがほとんどない 成田スカイアクセスが白井駅に停車しない
機 会 (Opportunities)	脅 威 (Threats)
<ul style="list-style-type: none"> 北千葉道路やインターチェンジの整備による利便性の向上 近年インバウンド需要があり、多くの外国人が国内を訪問している 梨のほか果樹栽培も盛んである 人気のイベントとして「ふるさとまつり」や「梨マラソン」がある 多様な企業、産業の集積による産業観光が可能な地域である 	<ul style="list-style-type: none"> 少子高齢化や人口減少が進行している 近隣市の大型商商業施設への消費者の流出 新型コロナウイルス感染拡大による観光人口の減少と消費者動向の変化



白井市の観光振興の基本方針・戦略



1 全体ビジョン

全体のビジョン

地域の底力で持続可能な未来を拓き、元気な産業都市しろい

本市の基本構想に掲げる将来像である「ときめきとみどりあふれる快活都市」を実現するためには、地域のひとが快適に暮らすように、市民生活の基盤を支える各産業、事業者が元気に事業活動を行うことが重要であり、持続的な地域経済の発展と成長が大切なこととなります。

また、持続的な地域経済の発展と成長には各産業分野の強みを発揮し、産業の底力を強化していくことが必要なこととなります。

そこで、産業、経済分野における白井市の産業の目指すべき姿、ビジョンを「地域の底力で持続可能な未来を拓き、元気な産業都市しろい」とし、このビジョンを推進することで、持続的な発展と成長を続け、地域経済の活性化を図っていきます。

今後、グローバル社会における厳しい経済情勢や、社会環境を乗り越えていくために、本市の産業には農業、商業、工業、観光といった多様な産業が、各分野の垣根を超えて、それぞれの強みを発揮し、事業者や関係経済団体、市民、行政が連携・協力し合いながら推進することにより、地域の底力を高めていくことが必要です。

本ビジョンでは地域性や特質を踏まえそこに立脚した施策を展開し、分野別にビジョン、基本方針を定めて各戦略プランを実行することで、働く場を生み出す環境や、商工業の振興と強靱化、農業のもつ多様な機能を活かした活性化のほか市役所、白井駅周辺や西白井駅周辺などの地域特性に合わせたにぎわいづくりを図っていくことで、後期基本計画の取り組み目標を達成し、もって総合計画における将来像の実現と快適な市民生活の向上を図り、地域が発展していくことを目指します。

2 分野別ビジョン

「地域の底力で持続可能な未来を拓き、元気な産業都市しろい」を全体ビジョンとして、農業、商業、工業、観光それぞれの分野別ビジョンを定め、各分野のつよみを生かしながら全体ビジョンの実現を目指します。

(1) 農業のビジョン

農業をまちの活性化のための資源として支援し、農商工や産学官の連携、地産地消や農業体験など市内外の人が多様な形で農にかかわれるまち

白井市の農業は、特産の梨を中心とした果樹、水稻、野菜等の農産物がバランスよく生産されていますが、農業従事者の高齢化及び減少に伴い、耕作放棄地の増加による周辺農地の耕作への影響や産地としての生産性低下などの影響が懸念されます。

そこで、白井市の農業のビジョンを「農業をまちの活性化のための資源として支援し、農商工や産学官の連携、地産地消や農業体験など市内外の人が多様な形で農にかかわれるまち」とし、農業者、農業者団体、農協や県などの関係機関、事業者や市民と連携し、担い手の確保、白井産農産物の付加価値向上、農業所得の向上と農業経営の安定化、農地の有効活用に係る施策を展開します。

これにより、魅力ある産業としての農業の振興と一般市民等による農業に親しむ活動の展開を通じて農業と農地が維持され、みどり豊かな景観形成と「農」を通じた交流が促進されるまちを目指します。

①イメージ写真

②イメージ写真

(2) 商業のビジョン

事業者が相互に連携し、地域の特性を生かした賑わいを創出し、活力に満ちた商業で快適に暮らしやすいまち

市内の商業環境は、変化と競争の中にあり、近隣市の大型商業施設の立地などによる消費者の流出や、中小個店の事業主の高齢化や担い手不足、新型コロナウイルス感染拡大による影響など、厳しい状況となっています。

市内商業の停滞は、地域の賑わいを失い、市民生活への影響も及ぼすものとなります。

そこで、白井市の商業のビジョンを「事業者が相互に連携し、地域の特性を生かした賑わいを創出し、活力に満ちた商業で快適に暮らしやすいまち」とし、事業者や関係者、市民などが連携し、それぞれの個性を高め、地域特性を活かした魅力ある店舗や地域の賑わいを創出し、地域の底力で活力溢れる商業の活性化を図りながら、市民の消費生活を支える商業を支援し、もって地域商業の持続的な発展と快適で暮らしやすいまちの実現を目指します。

①イメージ写真

②イメージ写真

(3) 工業のビジョン

多様な企業が集積する特性を生かし、地域で相互に連携しながら強靱で持続的発展を続け、快適に事業活動を行う産業都市

グローバル経済の進展による企業間競争の激化や技術革新、IT化などによる経済情勢の変化、近年の台風などの甚大災害、新型コロナウイルス感染拡大による影響などにより、中小企業が多くを占める本市の工業は、厳しい経営環境となっており、今後は社会環境や経済情勢に左右されない強靱な事業環境を築いていく必要があります。

本市の工業は、千葉県内最大の内陸工業団地を擁し、製造業を中心に発展してきましたが、近年は、立地業態、進出事業者が多様なものに変容してきており、多様な業種の集積は本市の強みにもなっています。

そこで、白井市の工業のビジョンを「多様な企業が集積する特性を生かし、地域で相互に連携しながら強靱で持続的な発展を続け、快適に事業活動を行う産業都市」とし、本市の強みである市内に立地する多様な業種、事業者が集積していることやその技術力を生かし、各企業の業種、産業の壁を越え、地域の底力で相互に連携・協力していくことで、産業の高度化と強靱化を図り、快適な事業環境を整え持続的な工業の発展を目指します。

さらに、北千葉道路の整備や周辺地域のインターチェンジの設置による地域の優位性を生かし、多様な産業の企業立地を推進し、地域が発展していけるよう取り組みます。

- ①イメージ写真
- ②イメージ写真

(4) 観光のビジョン

地域で連携して魅力溢れる観光資源の創出と地域の魅力を高め合い、持続的ににぎやかに人が集うまち

本市は都心と成田空港の中間に位置し、都心から30キロメートル圏内の好位置にありながらもみどりあふれる自然環境に恵まれ、梨の有数の産地であり、夏には梨の直売所などでにぎわいを見せますが、現状は成田空港への通過点となっており、全国的に知名度のある名所、観光施設があるような観光地はなく知名度の低い地域となっています。

こうした現状から、本市の観光のビジョンを「地域で連携して魅力溢れる観光資源の創出と地域の魅力を高め合い、持続的ににぎやかに人が集うまち」として、事業者、関係機関、市民、行政で相互に連携・協力しあいながら地域の底力を高め合い、新たな魅力の創造と創出で観光資源の発掘及び創出を図っていきます。

また、地域資源の活用などで魅力を高め発信することで、市の認知度・知名度を高め、市内外からの誘客を増やし、地域の人との交流によりにぎわいを創出し、人が集う観光振興を目指します。

①イメージ写真

②イメージ写真

3 分野別ビジョン・基本方針

農業、商業、工業、観光のそれぞれの分野にビジョンを定め、それらのビジョンに基づいて体系的に基本方針に取り組むことで分野別ビジョンを実現します。

分野別ビジョン

農業

農業をまちの活性化のための資源として支援し、農商工や産学官の連携、地産地消や農業体験など市内外の人が多様な形で農にかかわれるまち

分野別基本方針

- 基本方針 1 多様な形態の農業経営と担い手の支援
- 基本方針 2 農商工や産学官の連携による農産物の高付加価値化やブランド化
- 基本方針 3 白井産農産物の販売の場や販売形態の充実
- 基本方針 4 だれもが農に親しめる環境づくり

商業

事業者が相互に連携し、地域の特性を生かした賑わいを創出し、活力に満ちた快適で暮らしやすいまち

- 基本方針 1 経営基盤の強化と販路拡大
- 基本方針 2 人材確保と担い手育成
- 基本方針 3 地域商業の活性化
- 基本方針 4 創業支援と駅周辺地域の活性化

工業

多様な企業が集積する特性を生かし、地域で相互に連携しながら強靱で持続的発展を続け、快適に事業活動を行う産業都市

- 基本方針 1 人材確保と担い手育成（再掲）
- 基本方針 2 操業環境の安定化と産業の高度化
- 基本方針 3 工業団地の機能強化
- 基本方針 4 企業立地による産業振興

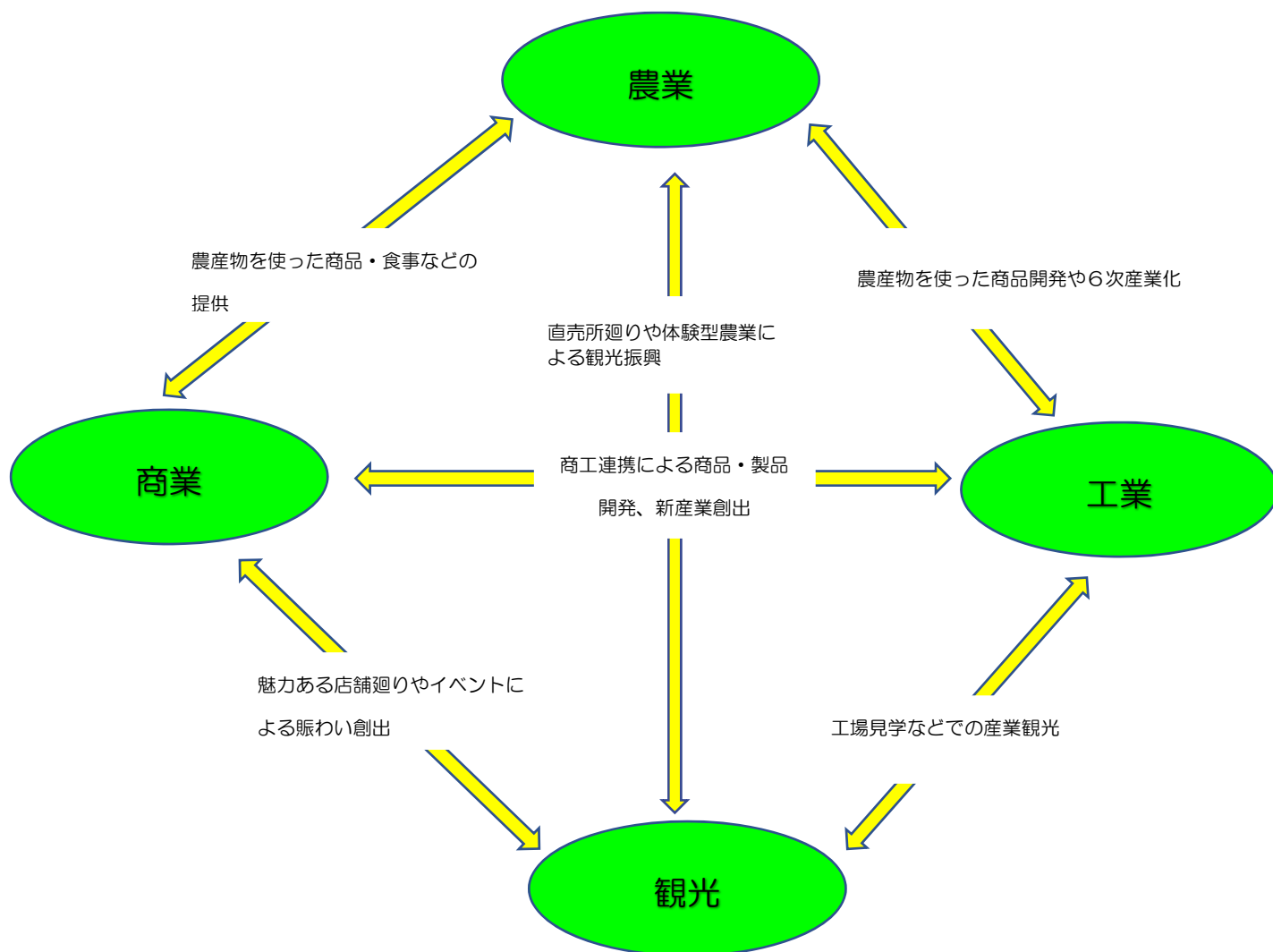
観光

地域で連携して魅力溢れる観光資源の創出と地域の魅力を高め合い、持続的に賑やかに人が集うまち

- 基本方針 1 プロモーションの強化
- 基本方針 2 地域資源を生かした観光客誘致
- 基本方針 3 ブランド力向上による地域の活性化
- 基本方針 4 農商工連携や広域的連携による観光振興

4 分野間連携

4つの分野はそれぞれに関連し合いながら白井市経済を支えています。このことを踏まえ、分野間に相互に関係するテーマについて、連携しながら積極的に取り組んでいくものとします。また、農産物、特産品のPRや地域の賑わい創出、北千葉道路の整備進捗のほか市民との協働による市の魅力のPRといった、各分野に共通し、深く関わるテーマについても相互に連携、交流により取り組んでいきます。



第4章

ビジョンの戦略的推進

1 農業振興の戦略的プラン

農業をまちの活性化のための資源として支援し、農商工や産学官の連携、地産地消や農業体験など市内外の人が多様な形で農にかかわれるまち

基本方針 1 多様な形態の農業経営と担い手の支援

目的

白井市では、農業就業人口の減少と高齢化が進行しており、併せて後継者不足が深刻な課題となっています。今後さらに若年層の農業離れによる兼業化や廃業が予測され、後継者がおらず担い手にも集積されない農地の遊休化の進行が懸念されるため、各種補助制度等を活用して新規就農の促進や認定農業者・認定新規就農者等の担い手を育成し、農地利用権設定や農地中間管理機構の活用等による担い手への農地の利用集積を推進します。

基本戦略

(1) 担い手への農地利用集積の促進と経営発展の支援

担い手への農地利用集積等による農地の効率的利用を推進するとともに、認定農業者をはじめ新規就農者、法人等の意欲ある農業経営体の育成確保、各種補助事業を活用した担い手の経営発展を支援します。

(2) 新規就農者の育成・支援

新規就農者を育成するため、農業関係事業者と連携して就農支援講座を開催します。また、就農希望者に対し、農業委員会や県農業事務所等関係機関と連

携し、農地の幹旋や独立に向けた研修先農家の紹介等の支援を行います。

基本方針 2 農商工や産学官の連携による農産物の高付加価値化やブランド化

目的

白井市の主要作物である梨のブランド強化を図るとともに、国内での販路・消費拡大を図るため、関係機関と連携したPRを推進します。また、自然薯を含む新たな農産物についても特産品化やPR等を行います。

基本戦略

(1) 主要農作物のブランド化推進

主要な特産品である梨や自然薯について、ポスターやのぼり旗などの販促資材を作成、活用し、生産者団体等と連携した販売促進のPR活動を通じて更なるブランド化を図ります。また、産地の維持発展や付加価値の高い農業経営の育成を関係機関と連携して推進します。

(2) 産学官連携による新規特産品の開発

産学官の連携を通じて新たな特産品や加工品の開発について調査等を行うとともに、産地化や商品開発に取り組む生産者を支援します。

基本方針 3 白井産農産物の新規販路の開拓や販売形態の充実

目的

農業者所得の向上と農産物の市内流通の拡大による地産地消の推進のため、農産物直売所等の運営支援や各経営に即した流通・販売ルートを確認します。

基本戦略

(1) 直売所の運営や販路の確保に対する支援

JA の農産物直売所や個別農家の直売所の PR 支援を通じた販売促進、市内小売店における市内産農産物の取扱いの PR や一層の取引増大に向けて継続的な協議を実施する。

(2) 他業種との連携による新たな消費の創出

地元飲食店や商店と連携した市内産農産物を使用した新しいメニューや商品の開発と販売促進等、商業者との連携による新たな出荷先の確保や消費の喚起・拡大を図ります。

基本方針 4 だれもが農に親しめる環境づくり

目的

農業に関心、理解のある市民が増えることにより、農業振興の観点からは農業の活性化や後継者の育成、地産地消の推進などにつながるとともに、市民生活の観点からはみどり豊かな環境におけるスローライフの実現や農作業を通じた健康維持などの実現が期待できます。

農地の有効活用の一環として農地所有者による市民農園・体験型農園の開設を支援するとともに、農家や農協などと連携して農業体験の開催など農に触れる機会を創出します。

基本戦略

(1) 市民農園・体験型農園の開設支援

遊休農地を有効活用し、市民が身近に農に親しむ場として市民農園や体験型農園の開設を支援します。

(2) 農業体験の機会創出

農家や農協などと連携し、野菜等の栽培・収穫体験や田植え・稲刈り体験など農業体験の機会を創出します。

2 商業振興の戦略的プラン

事業者が相互に連携し、地域の特性を生かした賑わいを創出し、元気で活力に満ちた商業で快適に暮らしやすいまち

基本方針 1 経営基盤の強化と販路拡大

目的

今後の人口減少による買い物客の減少が見込まれることや近隣市の大型商業施設への買い物客の流出、生活環境・経済・社会情勢の変化が激しく、市内を取り巻く商業環境は厳しいものとなっています。

このようなことから、変化に左右されないよう地域の商店や商業施設の経営の安定化と強靭化を図ることが重要であり、金融支援や販路拡大などを支援することで事業者ひいては、商業全体の活性化を図っていきます。

基本戦略

(1) 経営基盤の強化

中小企業資金融資や利子補給、経営に関する相談などを行うことで経営の安定化と強靭化を図ります。

- ・ 中小企業への資金融資支援
- ・ 中小企業退職金共済掛制度加入支援
- ・ 中小企業経営・創業なんでも相談窓口の開設

(2) 販路拡大の強化

販売促進や店舗の魅力向上、顧客の獲得などを支援することで、販路拡大を図ります。

- ・ 商売繁盛相談窓口の開設
- ・ 経営支援セミナーの開催

目的

人口減少や社会情勢の変化の中で、事業者の人材確保と担い手育成は大きな課題となっています。

商業施設、商店会、個人事業者の持続的発展には次世代を担う人材の確保と育成、そして次の担い手への事業承継を進めていく必要があります。

また、市民の働く場と雇用を維持するために、地域雇用の拡大を図る必要があります。

基本戦略

(1) 人材確保と地域雇用拡大

事業者の人材確保を支援し、また市民雇用の場を案内することで地域雇用拡大を図ります。

- ・無料職業紹介所の運営
- ・白井市就職フェア・合同企業説明会の開催
- ・就職支援セミナーの開催

(2) 人材育成と事業承継

経営、業務のスキル向上に繋がる人材育成を図るとともに、新たなる商業の担い手の発掘や育成など、事業承継を支援します。

- ・人材育成に係る研修会・セミナーの開催
- ・事業承継ネットワークちばの参加と情報収集・提供
- ・事業承継支援

基本方針3 地域商業の活性化

目的

地域商業の活性化を図ることは、地域の賑わい創出に繋がるとともに市民が快適に暮らすことでも重要なこととなります。

魅力ある商業施設、商店会、小売店・飲食店の賑わいを支援し、社会情勢に左右されず地域で経済が循環していけるよう支援し、市民が買い物しやすい環境づくりをしていきます。

また、市や商工会などで市民と商店会、中小個店や商業施設の連携や農商工連携の架け橋となり、市全体の商業の活力向上と強靱化をもって、地域の底力の強化を図ります。

基本戦略

(1) 地域商業の活性化

商工会や商店会の活動を支援し、商業の活性化、賑わい創出を図るほか快適な買い物ができる環境を整えます。

- ・商工会への活動支援
- ・商店街共同施設維持管理事業支援

(2) 繁盛店の創出と消費喚起

魅力ある店舗づくりでの商売繁盛と快適に買い物しやすい環境づくりで消費喚起を促し、安心して市民が暮らせるよう地域の底力を高めます。

- ・商売繁盛セミナー等の開催
- ・発見！白井の仕事人の連載
- ・消費生活センターの運営
- ・暮らしなんでもお助け隊

基本方針4 創業支援と駅周辺地域の活性化

目的

地域が元気になるためには起業や創業者を支援し、ローカルベンチャーやコミュニティビジネスを創出し、地域での就業者を増やしていく必要があります。

また、駅周辺地域は物販店が少なく、施設も老朽化するなど、にぎわいが乏しいと感じられることから次世代に繋ぐ将来のにぎわい創出に向けた取り組みが必要となります。

将来のにぎわい創出に向けたリノベーションや再開発などを市や商店会、関係事業者などとの連携により、駅周辺地域の活性化を図っていきます。

基本戦略

(1) 創業支援とベンチャー創出

地域で起業しやすい環境を整え、起業・創業、ローカルベンチャーやコミュニティビジネス創出などを支援します。

- ・創業支援事業計画の推進
- ・創業相談窓口の開設
- ・創業支援セミナーの開催
- ・コミュニティビジネスの創出

(2) 駅周辺地域の活性化

白井駅、西白井駅周辺のにぎわいを創出するため、市のプロジェクトチームや商店会、関係事業者などと連携して将来のリノベーションや再開発に向けた研究や社会実験を行い、駅周辺地域の活性化を図ります。

- ・駅周辺地域活性化事業
- ・駅周辺地域の社会実験
- ・にぎわいづくり支援事業

3 工業振興の戦略的プラン

多様な事業者が集積する特性を生かし、地域で相互に連携しながら強靱で持続的発展を続け、快適に事業活動を行う産業都市

基本方針 1 人材確保と担い手育成（再掲）

目的

人口減少や社会情勢の変化の中で、事業者の人材確保と担い手育成は大きな課題となっています。

商業施設、商店会、個人事業者の持続的発展には次世代を担う人材の確保と育成、そして次の担い手への事業承継を進めていく必要があります。

また、市民の働く場と雇用を維持するために、地域雇用の拡大を図る必要があります。

基本戦略

(1) 人材確保と地域雇用の拡大

事業者の人材確保を支援し、また市民雇用の場を案内することで地域雇用拡大を図ります。

- ・無料職業紹介所の運営
- ・白井市就職フェア・合同企業説明会の開催
- ・就職支援セミナーの開催

(2) 人材育成と事業承継

関係機関と連携し、研修会の開催、後継者の育成や事業承継を支援します。

- ・人材育成に係る研修会・セミナーの開催
- ・事業承継ネットワークちばの参加と情報収集・提供
- ・事業承継支援

目的

工業の発展には企業の労務環境の改善や働き方改革の推進など、快適な操業環境を整え、緊急事態に備えた強靱な経営体質としていく必要があります。

また、厳しい経済環境の中、持続的発展を遂げるためには、各産業の技術と生産性の向上を図る必要があることから、快適な労務環境や操業環境を整え、経営の強靱化や産業の高度化を図っていきます。

基本戦略

(1) 操業環境の安定化と強靱化

従業員の雇用や労務に係る相談などのほか緊急事態に備えた経営の強靱化を図り、快適で安定的な操業環境を整えます。

- ・年金・労働相談の実施
- ・働き方改革の推進
- ・事業継続計画（BCP）策定の推進

(2) 産業の高度化

企業の持続的発展のために先端的設備導入や従業員のキャリアアップなどを支援し、産業の高度化、効率化を図ります。

- ・中小企業の設備投資支援
- ・人材育成に係る研修会・セミナーの開催（再掲）

目的

本市には千葉県内最大の内陸工業団地がありますが、工業団地の機能を高めるため、道路網の整備や快適な事業活動を行うための環境整備、企業間連携や産学官などを推進し、機能強化をもって工業振興を図る必要があります。

基本戦略

(1) 工業団地の機能強化

工業団地周辺の道路網などのインフラ整備により工業団地の機能強化と利便性を図ります。

- ・工業団地アクセス道路整備事業
- ・工業専用地域振興事業

(2) 工業振興と産業交流

工業振興の取り組みや産学官、異業種交流などの産業交流を支援し、工業振興を図ります。

- ・工業団地協議会への活動支援
- ・産学官連携の推進

目的

地域のポテンシャル、特性を生かした企業誘致や新産業の立地による産業振興を図るため、産業用地の受け皿となる産業施設用地を創出していく必要があります。

道路ネットワークを活かした物流施設などの誘致や、恵まれた電力資源を活用し、多様な企業を誘致することで、新産業の誘致と産業施設の集積を推進し、産業振興を図ります。

基本戦略

(1) 企業立地の促進

各種奨励金制度を活用し、企業誘致活動を展開し、未利用地や居抜き物件などへの企業立地を促進します。

- ・ 企業立地奨励金制度
- ・ 商業施設等立地奨励金制度
- ・ 事業用地・空き用地の情報公開

(2) 事業用地創出と多様な産業施設の誘致

周辺環境の変化や地域特性を生かした多様な産業を誘致するための産業用地の受け皿となる事業用地を創出し、企業立地を推進し、産業施設の集積を図ります。

- ・ 事業用地の創出
- ・ 地区まちづくり協議会の支援
- ・ 電力インフラを活用した産業施設の誘致

4 観光振興の戦略的プラン

地域で連携して魅力溢れる観光資源の創出と地域の魅力を高め合い、持続的ににぎやかに人が集うまち

基本方針 1 プロモーションの機能強化

目的

本市は全国的に知名度の高い観光地ではなく、認知度が低い地域です。市の観光振興、にぎわいを創出するためには、魅力あるまちとして認知度を高め、訪れてみたくなるようなまちにしていく必要があります、プロモーションと魅力発信を強化し、認知度を高めて、市への誘客を図っていきます。

基本戦略

(1) 白井市の魅力の発信

白井市の魅力や地域を情報発信とプロモーションを行い、認知度向上を図ります。

- ・情報集約・発信支援事業
- ・フィルムコミッション等の誘致
- ・フォトプロジェクト事業

(2) イベントを活用したプロモーション

市外のイベントなどに参加し、特産品のPRやマスコットキャラクターなどを活用して、プロモーションを図ります。

- ・イベントの参加によるPR
- ・キャラクターを活用したPR
- ・ふるさと大使によるプロモーション

目的

既存の観光施設やイベントのほか自然環境や地域資源などをPRし、付加価値を高め、魅力・情報を発信し、地域の底力を高めながら市内の人や市外からの人を誘い、滞留人口、交流人口を増やし人が集う観光客の誘客を図ります。

基本戦略

(1) 観光施設・観光資源のPR

既存の観光施設や地域資源をPRし、施設への入込客数や誘客を増やし、にぎわい創出、地域の活性化を図ります。

- ・観光施設のPR
- ・農産物直売所のPR
- ・里山・自然環境のPR

(2) イベントによるにぎわい創出

農商工、異業種交流の場ともなる各種イベントの開催を支援し、交流・連携により付加価値、地域の底力を高め、滞留人口、交流人口を増やし、人が集うにぎわいを創出します。

- ・ふるさとまつりの開催
- ・梨マラソン大会の開催
- ・にぎわいづくり支援事業（再掲）

基本方針 3 ブランド力向上による地域の活性化

目的

地域の特産品の育成と PR を図り、また、新たなる特産品などの開発の支援により、ふるさと産品や特産品の認知度、ブランド力と価値を高めることで地域経済の活性化につながる魅力ある商品の充実を図り、郷土愛を醸成します。

基本戦略

(1) 特産品の育成と開発

地域特産品の育成を図り、新たなる産品や加工品、特産品などの開発を支援します。

- ・ふるさと産品推進事業
- ・特産品の発掘・開発支援

(2) 特産品の PR と消費拡大

ふるさと産品や特産品を市内外に PR し、商品価値や認知度、ブランド力を高め、消費拡大を図ります。

- ・ふるさと納税制度による地域資源・特産品の利用促進
- ・特産品の PR と販売促進
- ・沿線駅での PR

目的

市民や農業・商業・工業の各産業や事業者間連携により地域の底力を高め合い、魅力ある観光資源の発掘や創出、新商品や特産品、新産業を創出し、地域活性化を図ります。

また地域の魅力を最大限に発揮するため、広域的な観光ルートの発掘や友好都市とのイベントなどの交流により人が集う観光振興を図ります。

基本戦略

(1) 観光資源の育成と発掘

市民や農商工の事業者などとの連携と協力により魅力を発見し、地域の魅力を高めます。

- ・農商工連携による産業観光の推進
- ・フォトプロジェクト事業（再掲）

(2) 広域的連携による観光振興

周辺市などと連携し、広域的な観光ルートの発掘や友好都市との交流により観光振興を図ります。

- ・広域的観光の推進
- ・友好都市との交流を生かした PR

第5章

計画の推進

1 関係主体の役割

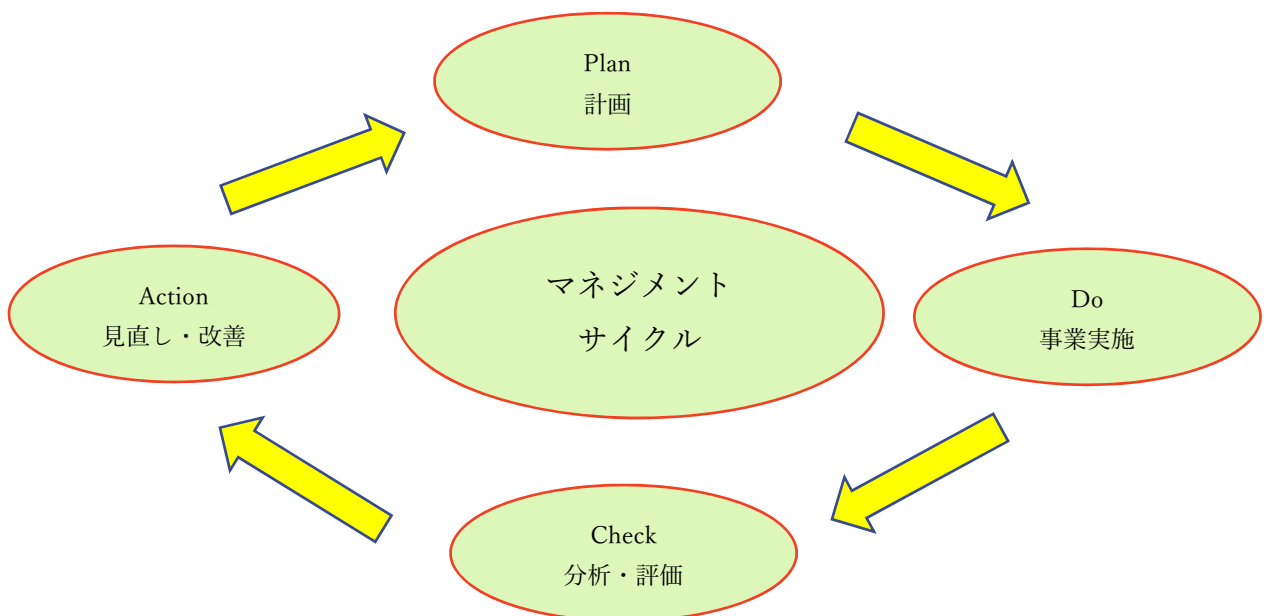
計画に位置づけられた産業振興のために施策を着実に実行し、市ににぎわいと活力をもたらすためには、市、商工会だけではなく、事業者、産業経済団体、市民等がそれぞれの役割を認識し、責務を果たしつつ、互いに連携・協働した取り組みを進めていくことが重要となります。

また、変化する社会経済情勢及び国や県の産業政策に柔軟に対応していくことが必要となります。

関係主体	主な役割
事業者	事業者は、自らの事業の発展、経営の革新、人材育成、従業員の福利厚生 の向上、雇用の拡大並びに消費生活の安定及び安全確保することに努め る。
産業経済団体	産業経済団体は、事業者自らの創意工夫及び自主的な努力による組み 組みを支援し、事業者や関係各機関との連携や交流の促進や市が行う産業の振 興に関する施策に協力するよう努める。
市民	市民は産業の振興が市民生活の維持及び向上、地域経済の循環並びに雇用 の拡大に寄与することを理解し、地産地消に取り組む等の振興に協力する よう努める。
行政	市は産業振興条例における市の責務を踏まえながら、事業者や関係機関等 と協力して各産業の交流と連携が促進されるよう努め、産業振興における 施策、戦略を計画的かつ効率的に実施する。

2 計画の推進体制等

本ビジョンにおける基本方針、各戦略プランの進捗、推進を管理し、点検、評価を行うため、産業振興条例に設置されている学識経験者や産業別事業者の代表のほか産業経済団体等で構成される産業振興ネットワークにおいて、進捗を進行管理していきます。



産業振興ネットワーク構成員

	委員構成	委 員	人数
1号委員	学識経験者	大学や研究機関などの代表者	2人
2号委員	産業経済団体	商工会などの経済団体の代表者	3人
3号委員	事業者	農業・商業・工業関係からの 事業者代表者	6人
4号委員	市民	一般市民	3人
5号委員	その他	金融機関からの代表者	1人

※白井市産業振興条例第8条に定める産業振興ネットワーク委員